

白河市光のマスタープラン ～ 星も人も輝く白河 ～



令和8年3月

白 河 市

表紙イラストは、白河市の夜間景観をイメージしたものです。

目 次

序章 はじめに.....	1
1. 計画の背景・目的.....	2
2. 計画の位置づけ・役割	3
第1章 夜間景観を取り巻く現況と課題	4
1. 白河市の現況.....	5
2. 夜間景観の現況	7
(1) 歴史景観	8
(2) 都市景観	10
(3) 田園景観	10
(4) 自然景観	11
(5) 眺望景観	12
(6) 景観軸.....	13
(7) 景観拠点	15
3. 市民意識の把握	17
4. 夜間景観向上に向けた課題	20
第2章 夜間景観の基本方針	22
1. 夜間景観の将来像	23
2. 夜間景観づくりの基本方針	25
第3章 夜間景観形成の方針	27
1. 夜間景観形成の基本的な考え方	28
2. 景観特性ごとの方向性.....	36
(1) 歴史景観	36
(2) 都市景観	40
(3) 田園景観	44
(4) 自然景観	45
(5) 眺望景観	46
(6) 景観軸.....	48
(7) 景観拠点	50
3. ケーススタディ(具体的な空間イメージ).....	53
(1) 小峰通り	53
(2) 谷津田川	55
(3) 南湖公園	57
(4) 旧奥州街道	58
(5) 新白河駅前	60
第4章 将来像の実現に向けて	61
1. 計画推進に向けた取組	62
2. 計画の見直し.....	63

序章 はじめに



小峰城跡三重櫓のライトアップ

1. 計画の背景・目的

白河市は、古代の「白河関跡」、白河藩主の居城「小峰城跡」やその城下町に由来する中心市街地、松平定信が士民共楽の理念のもとに築造した「南湖公園」など、豊富な歴史的・文化的資源を有し、これらが白河という都市空間を印象づける重要な景観資源となっています。さらに、阿武隈川、社川、隈戸川などの源流域には、緑豊かな自然丘陵の中に田園景観が広がり、都市周辺空間の景観を特徴づけています。

本市ではこうした景観特性を守り、つくり、育てるために、平成23年3月に「白河市景観計画」(以下、「景観計画」という)を策定し、歴史的な景観や美しい自然景観を活かした景観まちづくりを推進してきました。

夜間景観においては、小峰城跡のライトアップをはじめ、街路灯や看板の光、住まいから漏れる明かり、月や星の光、季節の祭事・イベントの光など様々な「光」があり、近年は市民や民間事業者によるイルミネーションの実施も行われ、良好な夜間景観を演出する取り組みも行われています。

しかしながら、景観計画の中では、夜間景観の具体的な基準を設けておらず、部分的な検討や整備のみとなっているため、夜間における「光」の統一感や防犯面、光害¹対策に課題がある状況です。

こうした本市の「光」を取り巻く課題に対応しながら、市内の夜間景観を創り出す「光」を市全体で整え、本市の魅力を高め、都市としてのブランドイメージの向上及び、街全体の活性化を図ることを目的として「光のマスタープラン」(以下、「本計画」という)を策定します。

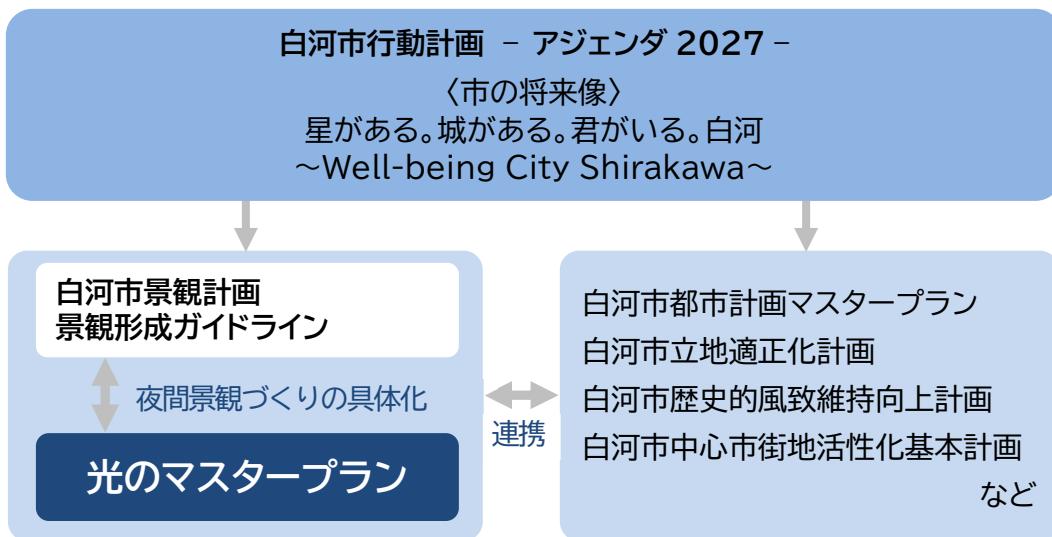
本計画を策定し、今後は市民・民間事業者・行政等がとともに連携することで、市民の暮らし方や場所ごとの特性に合った、統一感のある白河らしい魅力的な夜間景観づくりを進めていくことを目指します。

1 光害（ひかりがい）：照明の設置方法や配光が不適切であるために、景観や周辺環境に及ぼす悪影響のこと。

2. 計画の位置づけ・役割

(1) 計画の位置づけ

本計画は、市の最上位計画である「白河市行動計画 -アジェンダ 2027-」に則するとともに、景観計画や景観形成ガイドラインを踏まえ、夜間景観づくりの将来像とそれを実現するための方向性を具体化するものです。策定にあたっては、各種関連計画との整合、及び各分野の施策と連携を図ります。

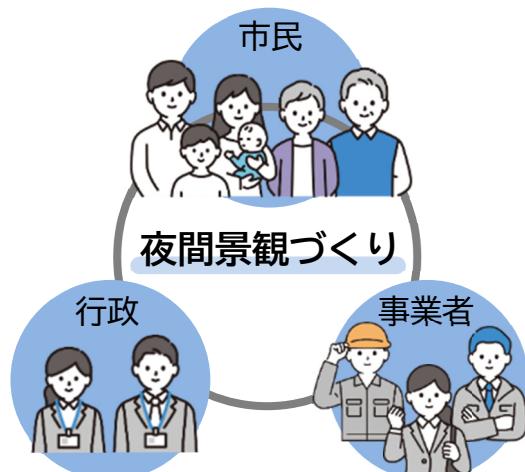


(2) 計画の役割

魅力的な夜間景観づくりを推進していくためには、道路や公共施設などの公共空間の光だけではなく、住宅や店舗などの私的空間からの光も含め、市全体として良質で調和のとれた光を構成していくことが重要となります。

そのため、市民・民間事業者・行政等が夜間景観づくりに対する理解を深め、互いに協力・連携しながら、光を紡いでいく必要があります。

本計画は、夜間景観づくりの方向性やポイントを示し、魅力的な夜間景観の形成に向けて、積極的に取り組むための“指針”として策定するものです。



(3) 計画の対象区域

本計画は、景観計画との整合を図るため市全域を対象とします。

第1章 夜間景観を取り巻く現況と課題



白河駅舎

1. 白河市の現況

(1) 位置・交通・地勢

本市は、那須連峰を望む福島県の南部中央に位置し、市の中心部から県都福島市まで約90km、東京都心までは約185kmの距離にあります。市域は、東西に約30km、南北に約30kmに広がり、総面積は305.32km²となっており、約半分を山林が占めています。

市内には阿武隈川、社川、隈戸川をはじめとする多くの河川が縦横に流れ、これらの源流域には優良農地が広がり、豊かな田園風景を形成しています。また、市の中心部では阿武隈川に沿って東西にコンパクトな市街地が広がっています。

交通面では、都心までを約1時間10分で結ぶ東北新幹線をはじめ、東北自動車道、車で30分の距離にある福島空港などの高速交通体系に恵まれ、さらにはJR東北本線、幹線道路である国道4号、国道289号及び国道294号などにより、首都圏とのアクセスや広域的な交通の利便性に富んでいます。

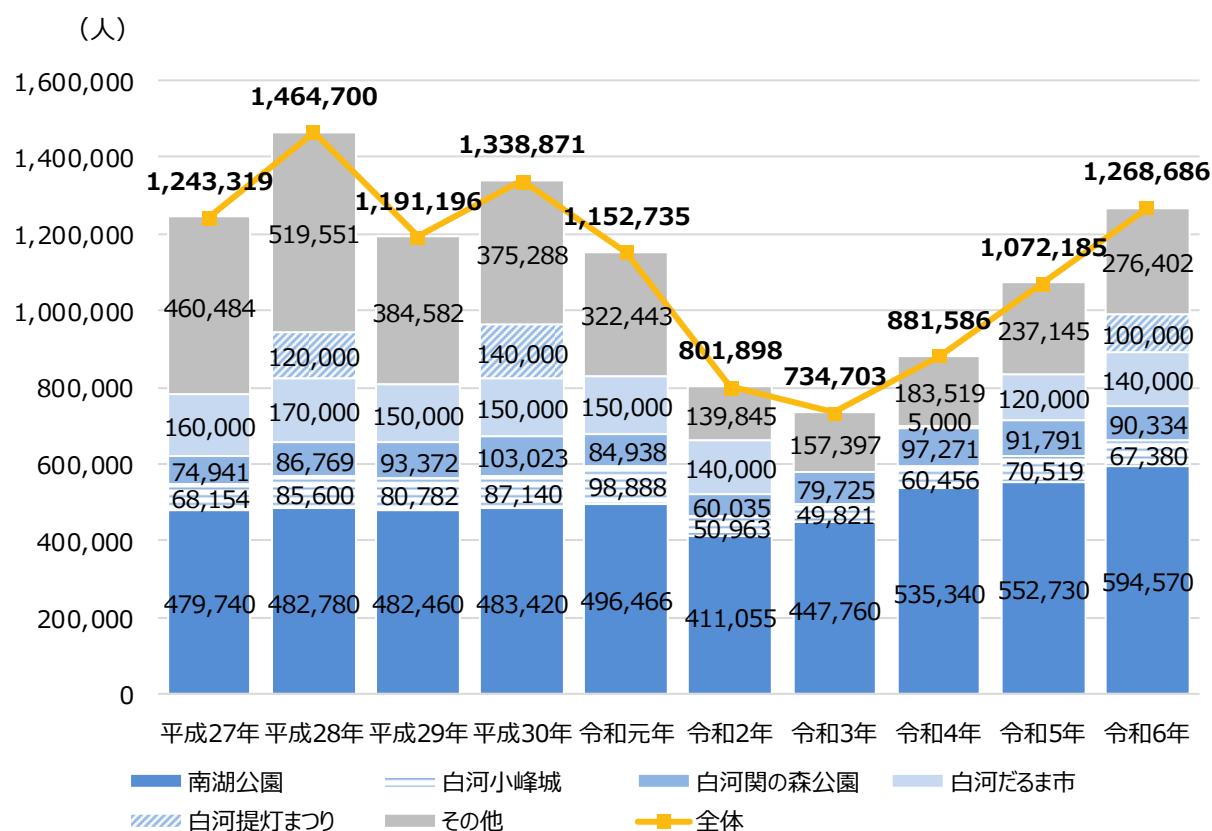


本市の位置及び市内の主な道路・鉄道

(2) 観光の状況

過去10年間の推移をみると、増加傾向にあった観光客入込数は、平成28年をピークに減少傾向となり、令和2~3年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により激減しています。その後、イベントの再開などにより観光客入込数が回復しています。

集計対象地点別にみると、令和6年の観光客入込数は、国指定史跡・名勝「南湖公園」が最も多く594,570人、次いで「白河だるま市」が140,000人、2年に1回開催される「白河提灯まつり」が100,000人、白河の間に隣接する「白河関の森公園」が90,334人、「白河小峰城」が67,380人となっています。いずれも新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に回復しつつあります。



※集計対象地点の対象は、前年又は調査年の観光入込客数が年間1万人以上、もしくは前年又は調査年の特定月の観光入込客数が5千人以上の観光地（イベント）となっているため、各年において集計対象地点が異なる。

出典：福島県観光客入込状況（1/1～12/31）

全体・集計対象地点別の観光客入込数の推移

2. 夜間景観の現況

景観計画にて整理している景観特性（本市の景観を形成する要素）ごとに、夜間景観の現況を整理します。

No.	景観特性	概要	景観構造の骨格
1	歴史景観	寺社等の歴史的建造物、歴史的街並み、史跡等、歴史的要素により構成される景観、または文学・詩歌・芸能・祭り等にちなむ景観	面
2	都市景観	主として建築物群によって構成される住宅地、商業地、工業地等における景観	
3	田園景観	阿武隈川、社川、隈戸川等の源流域に広がる優良農地、集落等における景観	
4	自然景観	山地、丘陵地、農地、河川等自然的オープンスペースによって構成される景観	
5	眺望景観	那須連峰をはじめとする山々やランドマークとなる建築物等を眺望して得られる景観、または高台等から見渡して得られる景観	眺望
6	景観軸	道路、河川等地域の骨組みとなる線的な景観	線
7	景観拠点	歴史的建造物、樹木等の点的な景観	点



小峰城跡と市街地

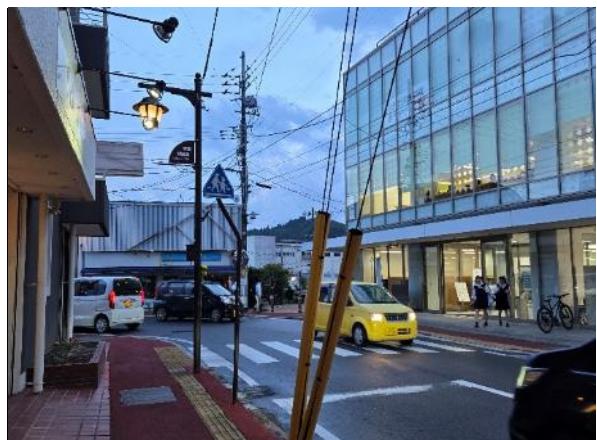
(1)歴史景観

① 旧奥州街道

旧奥州街道は、蔵などの歴史的建造物が多く、特に鉤型の街路は城下町を感じる特徴的な構造となっています。夜間の演出は少なく、景観資源の魅力が感じづらい状況です。また、街路灯は町ごとに形状が異なり、個性ある景観を形成している一方で、一部の灯具はまぶしさを感じるものもあります。



屋台（山車）会館
白河提灯まつりの屋台（山車）が保管されている



マイタウン白河前の通り（中町～本町）
城下町特有の鉤型の街路となっている



各町で異なる形状の街路灯（一部）

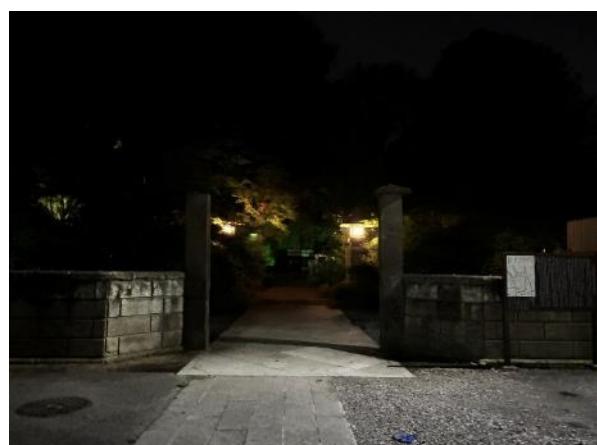


② 門前通り

門前通りは、寺院などの歴史的建造物や、白河ハリストス正教会聖堂といった近代建造物があります。センターインのない石畳調の道路で城下町特有の鉤型の街路です。車通りが少なく、歩行者にもやさしい通りとなっており、夜間は、町ごとに形状が異なる街路灯や寺院による光の演出があります。



白河ハリストス正教会聖堂と鉤型の街路
石畳調の道路で、特に夜間は車通りが少ない



関川寺
木々のライトアップや灯籠を灯している

③ 歴史的街道沿いの集落

奥州街道や会津街道、水戸街道などの歴史的街道沿いの集落には、宿場町の面影を残す建築物等が今も残っている箇所があります。夜間は防犯灯が点在するため通行には問題はないものの、明かりがまぶしく感じる箇所もあります。



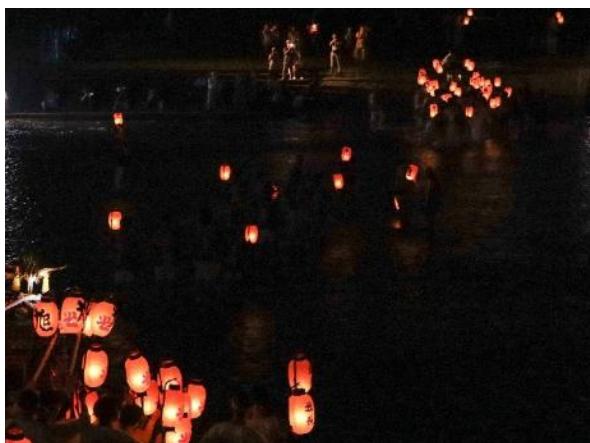
旧上小屋宿（会津街道）の街並み
現在も屋号で家を呼び合う日常があり、各民家に設置された屋号の看板が宿場町の面影を残す



旧上小屋宿（会津街道）の街路灯
防犯灯が点在している

④ 伝統的な行事

本市の行事は、各地域で年間を通して開催されています。夜間においては白河提灯まつりや白河関まつりなどがあります。特に、長い歴史と伝統のある白河提灯まつりの提灯の暖かな光は、市民に親しまれています。



白河提灯まつり（提灯行列の阿武隈川渡河）
水面に提灯の光が反射する美しい風景が特徴的である



白河提灯まつり（提灯行列）
淡い光を纏った提灯行列が城下を照らし、神秘的な情景が広がる

(2)都市景観

① 新白河駅周辺

新白河駅周辺は、マンションやホテル、商業施設などがあり、都市機能が備わった利便性の高いエリアで、特に国道 289 号のショッピングセンターなどにぎわいがみられます。新白河駅は、本市の玄関口として来訪者を迎えると共に、街の魅力や個性を印象付ける重要な場所です。



新白河大通り、新白河駅周辺の住宅地・商業地

新白河大通りには車道を照らす照明はあるものの、歩道には照明が設置されていないため暗い印象がある
住宅地や商業地には上空に光が漏れている箇所がある

② 工業団地

工業団地は市街地から一定の距離がある場所に位置しており、24 時間稼働の工場も立地するなど、産業活動が活発に行われています。

(3)田園景観

郊外に広がる田園風景や集落においては、明かりが少ない環境のため、街路灯や自販機の光にまぶしさを感じやすくなっています。一方で、デザインされた街路灯や夜間に必要以上に点灯させない照明があり、夜間景観への関心の高さが伺える場所もあります。



旗宿地域

窓明かりが少なく自販機や防犯灯の光が目立つ



隈戸川沿いの通り

デザインされた街路灯がある

(4)自然景観

南湖公園は、那須連峰を借景とした市民に親しまれている場所であり、夜間は美しい月や星、水面の輝きを望むことができます。場所によってにぎわいの度合いが異なり、湖周辺には様々な照明が設置されています。明るさのある場所と、照明を控えた場所が混在しており、それぞれに魅力があります。



南湖公園（日中）
千世の堤からは那須連峰の雄大な景色が広がる



南湖公園（夜間）
月や星が輝く夜空や、水面の輝きが望める

聖ヶ岩は、壮大な自然の中でキャンプや登山等が楽しめる場所です。この周辺は、照明がほとんど設置されていないため、星空や螢がよく見える環境が整っています。



聖ヶ岩
那須連山のふもとに広がる岩山群



聖ヶ岩ふるさとの森
ビジターセンターからの夕暮れ

(5)眺望景観

① 友月山からの城下町

友月山から見渡す城下町は、極端に目立つ照明等はないものの、多様な色味の灯具が用いられており、場所ごとに光が異なる状況です。特に、街路灯や白河駅のプラットホームには、比較的明るい灯具が使われています。



友月山からの眺望
場所ごとに異なる色味や明るさの光がある

② 小峰通り

小峰通りは、ライトアップされた小峰城跡三重櫓を望めるシンボル的な通りです。無電柱化や歩道に向けた街路灯の設置がされており、三重櫓への眺望に配慮が見られます。また、夜間の交差点や白河駅のプラットホームの照明が、安全性の確保のために十分な明るさとなっている一方で、その光が三重櫓への眺望に影響を与えています。



小峰通り（日中）
三重櫓への眺望に配慮した整備が行われている



小峰通り（夜間）
周囲の光により三重櫓への眺望が遮られる

(6)景観軸

① 谷津田川

谷津田川は、遊歩道やポケットパークなどの親水空間が整備されており、暮らしの中で自然を感じる場所となっています。夜間は北側の道路や橋に照明が整備され、普段は落ち着いた雰囲気となっており、桜や紅葉の季節にはライトアップが行われます。様々な色合いの灯具が用いられており、中にはまぶしさを感じるものもあります。



谷津田川（日中）

緩やかな流れで親水空間のある河川景観が広がる

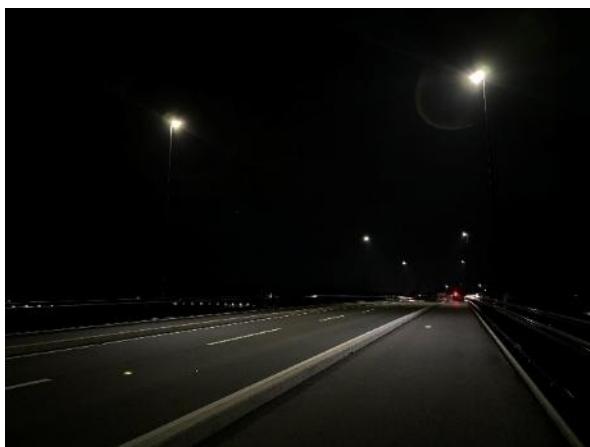


谷津田川（夜間）

様々な色合いの灯具が用いられている箇所がある

② 阿武隈川

阿武隈川にかかる国道 294 号白河バイパスの小峰大橋は、広範囲を照らす背の高い照明が整備されています。市道旧奥州街道線の田町大橋上においては欄干部分に照明が整備されています。



小峰大橋

広範囲を照らす照明が整備されている

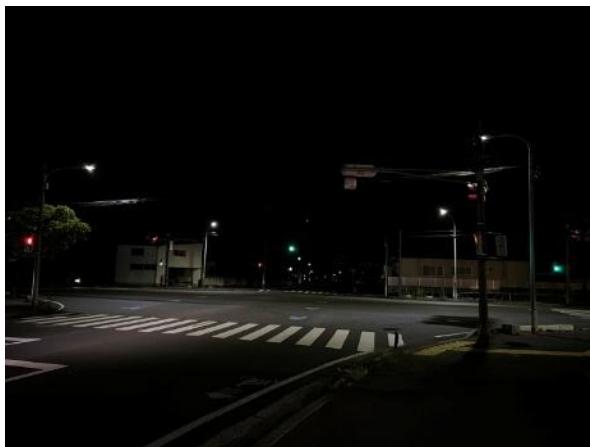


田町大橋

橋の欄干に照明が整備されている

③ 幹線道路

国道 4 号や国道 289 号では、安全で快適な交通環境のため、主に交差点に車道を照らす背の高い照明が整備されています。国道 294 号白河バイパスでは、交通量が多い幹線道路と同様に主に交差点に車道を照らす背の高い照明が整備されていることに加え、歩道を照らす背の低い照明が整備されています。



国道 289 号
車道を照らす背の高い照明が整備されている



国道 294 号白河バイパス
歩道を照らす背の低い照明が整備されている

(7)景観拠点

① 小峰城跡(城山公園)周辺

本市のシンボルである小峰城跡三重櫓は、市内各所からよく見え、市民に親しまれています。三重櫓のある城山公園のほか、東側にも長く続く石垣が残っており、阿武隈川からも小峰城跡の大きさが感じられます。城山公園の東側には昔ながらのガス灯があり、趣のある風景を作り出しています。また、三重櫓や前御門などのライトアップが毎日行われており、イベントや目的に応じて様々な色に演出されます。



小峰城跡三重櫓
ライトアップされている姿が市内各所から見える



藤門
白河駅前につながるこみね・ふれあい通りに近い門



小峰大橋から見る石垣



城山公園東側にあるガス灯
江戸時代の面影を残す小峰城跡と大正ロマンを感じる白河駅舎をつなぐように、明治時代から普及したガス灯が趣のある雰囲気をつくる



ガス灯（夜間）

② 白河の関跡周辺

白河の関跡は、みちのくの玄関口として本市を語るうえで欠かせない史跡です。照明はなく、夜間はほとんど明かりがない状況です。周辺の専用駐車場の照明は点灯が控えられており、照明は道路沿いの防犯灯となっているため、星や螢がよく見える環境となっています。



白河の関跡（日中）
奥州三古関の1つで、都から陸奥国へ向かう東山道の要衝に設けられた関所



白河の関跡（夜間）
照明はなく、夜間はほとんど明かりがない

③ 白河駅周辺

白河駅は、木造の駅舎で市民に親しまれ、夜間には外観のライトアップがされており、住民や来訪者を温かく迎え入れる雰囲気があります。一方で、一部点灯していない箇所や照らされていない部分があるため、光の演出を工夫することで、より一体感のある夜間景観の創出が期待できます。

白河駅に近接する白河市図書館りぶらんからは室内の窓明かりが見え、雰囲気の良い場所となっています。一方で、白河駅からりぶらんまでの歩道は、りぶらん閉館後は明かりが少なくなるため、歩行時に暗さを感じる場所があります。



白河駅
大正ロマンの情緒がある木造の駅舎



白河市図書館りぶらん周辺
室内の窓明かりが見える

3. 市民意識の把握

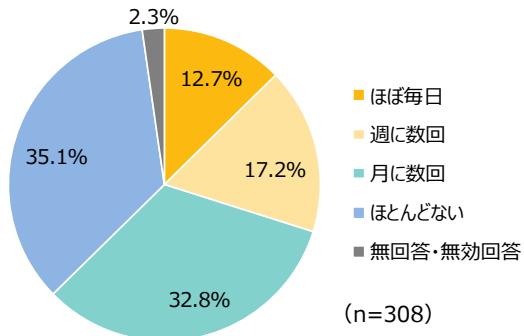
本計画策定にあたり、本市の夜間景観に対する満足度や問題点などを把握するために、市民アンケートを実施しました。

■市民意識調査の概要

調査対象	住民基本台帳から無作為抽出した1,000人の市民に配布。		
調査方法	郵送配布し、回収は郵送もしくはWEB回答とする。		
調査期間	令和7年6月		
回収票数	308票	回収率	30.8%

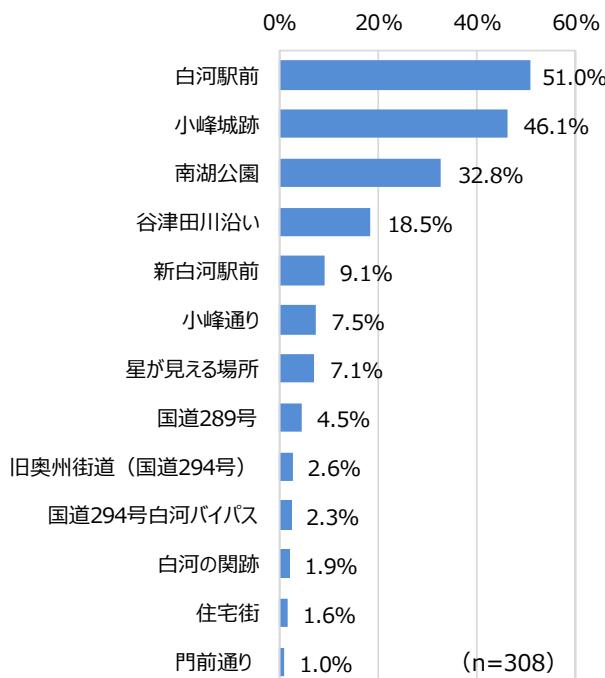
■夜間の外出頻度

夜間の外出頻度は「ほとんどない」が最も多く35.1%、次いで「月に数回」が32.8%、「週に数回」が17.2%となっており、全体的に夜間の外出頻度が少ない傾向となっています。



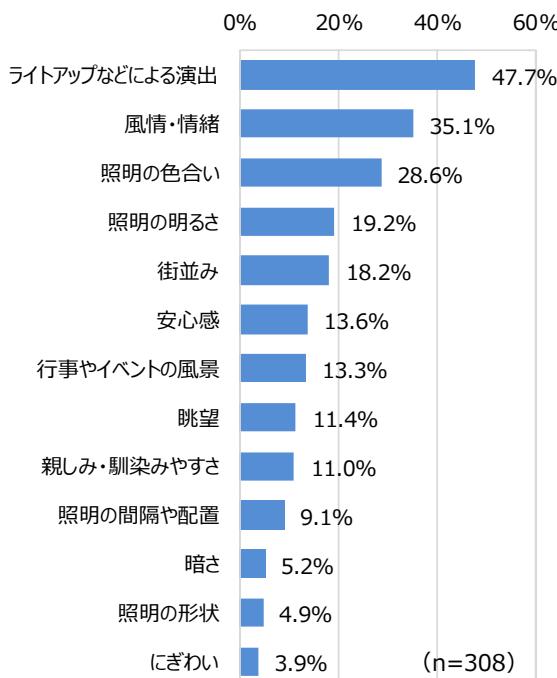
■市内的好きな夜間景観

市内的好きな夜間景観は、「白河駅前」が最も多く51.0%、次いで「小峰城跡」が46.1%、「南湖公園」が32.8%となっています。



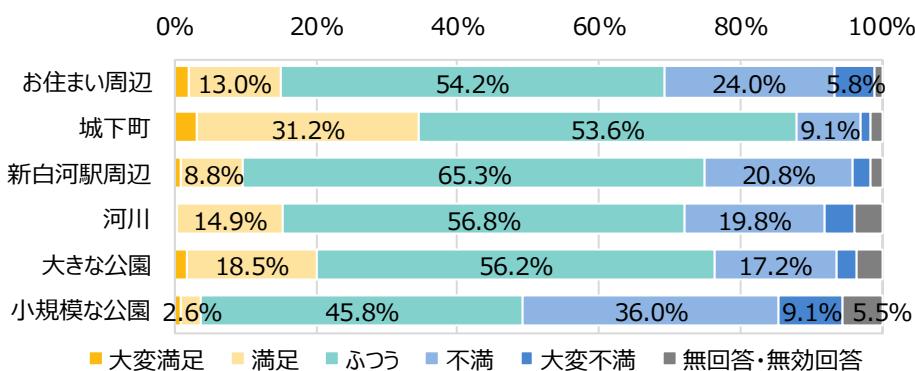
■選んだ夜間景観の好きなところ

選んだ夜間景観の好きなところは、「ライトアップなどによる演出」が47.7%と最も多く、次いで「風情・情緒」が35.1%、「照明の色合い」が28.6%となっています。



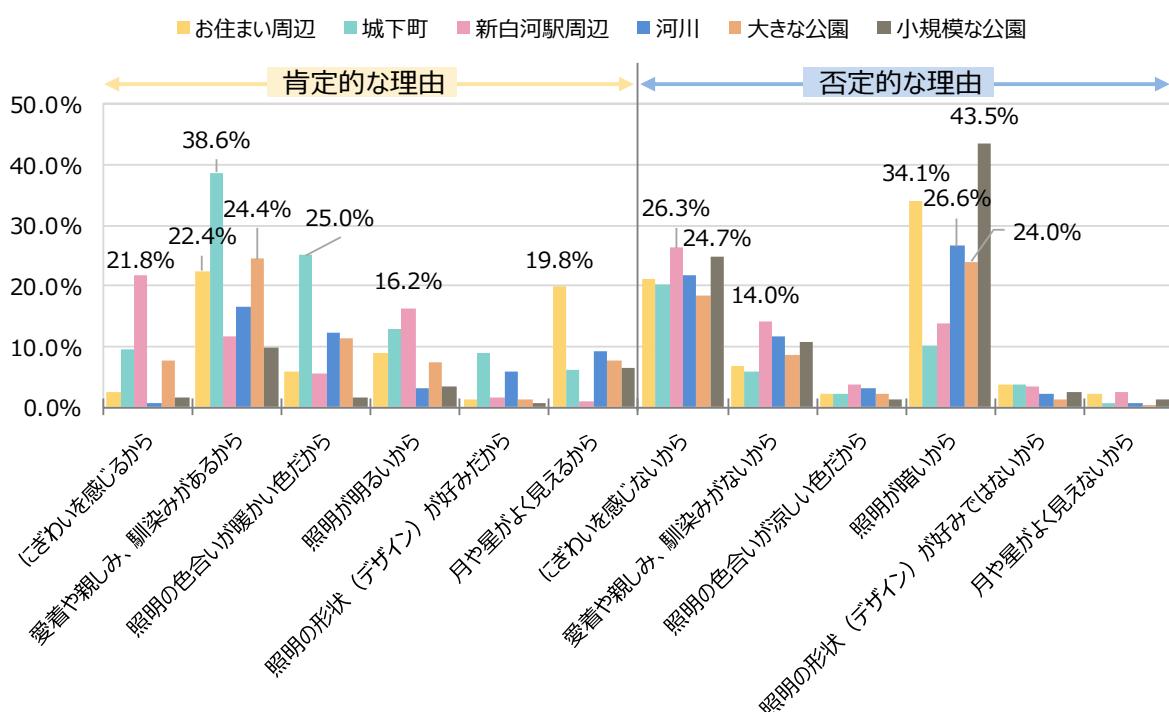
■場所ごとの満足度

場所ごとの満足度は、「城下町」が比較的高く、「大きな公園」は満足度と不満度が半々で、それ以外の項目は不満度の方が高く、特に「小規模な公園」の不満が高くなっています。



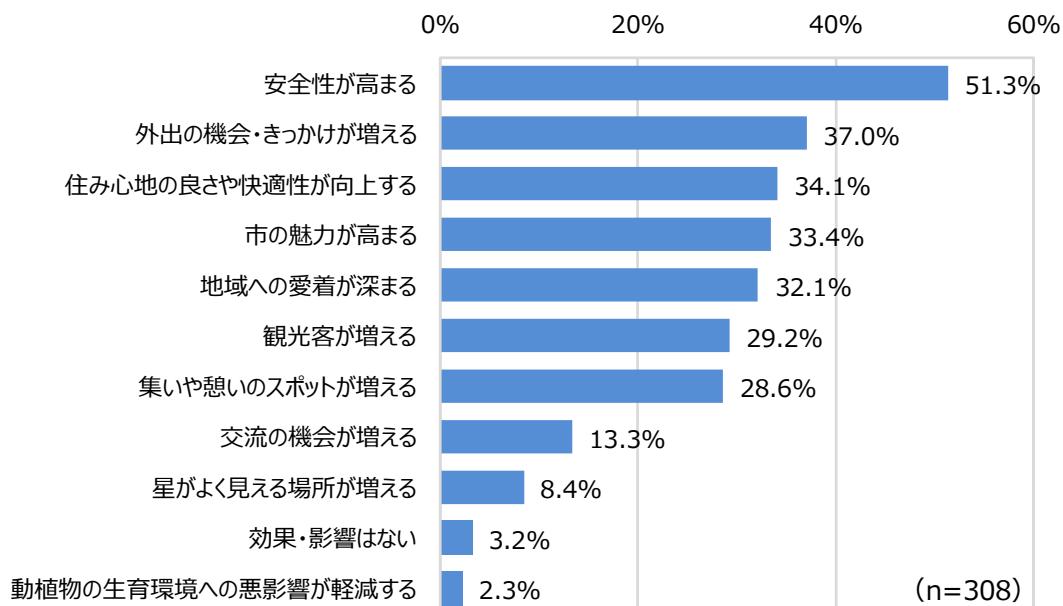
■場所ごとの満足度の理由

- お住まい周辺：「照明が暗いから」という否定的な理由が多い反面、「愛着や親しみ、馴染みがあるから」といった肯定的な理由も多い。
- 城下町：「愛着や親しみ、馴染みがあるから」、「照明の色合いが暖かい色だから」などの肯定的な理由が多い。一方で、「にぎわいを感じないから」という否定的な理由もある。
- 新白河駅周辺：「にぎわいを感じないから」と「にぎわいを感じるから」と両極端な理由が多い。
- 河川：「照明が暗いから」、「にぎわいを感じないから」などの否定的な理由が多い。
- 大きな公園：「愛着や親しみ、馴染みがあるから」といった肯定的な理由が多い反面、「照明が暗いから」、「にぎわいを感じないから」などの否定的な理由も多い。
- 小規模な公園：「照明が暗いから」、「にぎわいを感じないから」などの否定的な理由が多い。



■夜間景観の向上の効果・影響

夜間景観の向上の効果・影響は「安全性が高まる」が最も多く 51.3%、次いで「外出の機会・きっかけが増える」が 37.0%、「住み心地の良さや快適性が向上する」が 34.1%となって います。



■アンケート総括

アンケートの結果、小峰城跡や白河駅、城下町の雰囲気や照明の暖かな色合い、さらに、南湖公園の豊かな自然景観に対して愛着があることが分かります。また、夜間景観の向上によって外出の機会が増えると思う方が多く、街なかや新白河駅周辺のにぎわい創出が期待されています。

一方で、お住まい周辺やその近くにあるような小規模な公園の照明が暗いと感じる方が多くなっているなど、夜間の安全性の向上や防犯対策が強く求められています。また、月や星が見える暗さを大事にしたいという声もあります。

これらの結果から、市全体の夜間ににおける安全性や防犯対策を向上させ、市街地ではにぎわいを創出することと、月や星などの夜間の自然景観を守ること、これらが両立したメリハリのある夜間景観づくりが必要です。

4. 夜間景観向上に向けた課題

① 歴史や文化との調和

本市には、小峰城跡をはじめとした歴史景観や都市景観など様々な景観があります。各地域で古くから継がれてきた祭事、そしてそれらを受け継いできた人々の心なども含めて、豊かな歴史や文化があります。一方で、夜間においては、部分的にそれら魅力を感じる箇所はあるものの、街全体としては魅力が感じづらい状況です。

街全体の光を整理することで、夜間もこれらの魅力を際立たせることが期待できます。白河らしさのある夜間景観をつくるためには、地域特性や市民の暮らしに寄り添った光の整え方を検討し、豊かな歴史や文化と調和することが必要です。

② 場所や時間ごとに適した光

白河駅前や小峰城跡は白河を象徴する顔として親しまれ、城下町の暖かな色合いの光は市民に愛着を持たれています。新白河駅は本市の玄関口としてにぎわい創出が求められ、その他住宅地においては、安全性の向上や防犯対策が望まれています。

一方で、必要以上の光は、エネルギーの無駄遣いや人間の体内時計の乱れを引き起こす要因となります。そのため、場所の持つ機能や役割に合った光、環境面や人々の健康面に配慮した時間ごとに適した光を選ぶことが必要です。

③ 星・豊かな自然との共生

本市には、那須山系や八溝山地が連なり、丘陵のある地形や、阿武隈川をはじめとする多くの河川があり、水と緑豊かな環境があります。本市の人々は、夜空に輝く星や月、光輝く水面、螢の光など、夜の美しい自然環境を身近に感じながら暮らしてきました。

一方、照明のなかには、まぶしさが強いものや、青白く色温度の高い光を発するもの、上方に光が漏れているものがあり、そのような光は夜空に輝く星をはじめ、ドライバーの視界不良や動植物の生育環境に影響を及ぼす光害につながる恐れがあるものもあります。本市は豊かな自然環境の中で市民の暮らしが営まれており、先人が守り続けてきた自然との共生が必要です。

④ 市民等との協働・連携、体制の構築

本市は、街なかのにぎわいが減少しているものの、例年百万人程度が来訪しています。街を活性化するには、夜間景観の魅力を向上させ、市民の外出の機会の増加や、来訪者の滞在時間の増加、再来訪への意欲向上を図ることが重要です。

一部の施設や照明においては、夜間の雰囲気づくりや地域の個性が生かされた設えとなっているものの、魅力的な夜間景観をつくるには、公共空間の光だけではなく私的空間からの光も含め街全体として光を整えていく必要があります。市民・民間事業者・行政等が互いに協働・連携できる仕組みづくりが求められています。

第2章 夜間景観の基本方針



天神神社からの星空

1. 夜間景観の将来像

本市は、城下町の雰囲気を残す街並みや都市機能が集約された市街地があり、郊外には、星が見える自然豊かな田園が広がります。

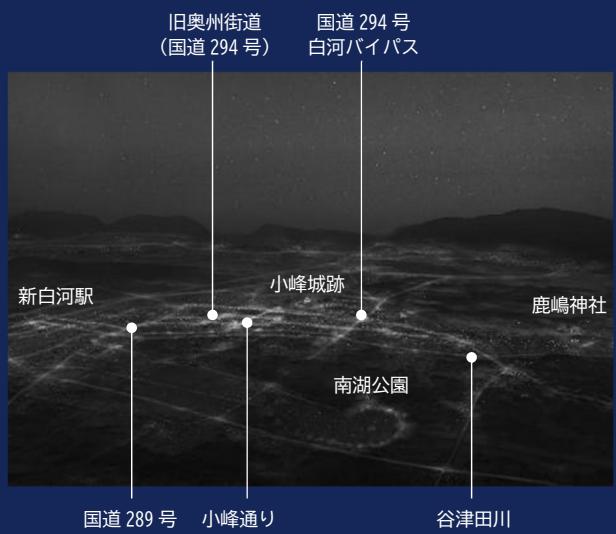
本計画では、市街地のにぎわいを創出しつつ、これまで市民が守り続けてきた自然環境を次世代に引き継ぐことで、魅力的で持続可能なまちを実現するために、夜間景観の将来像を「星も人も輝く白河」と設定します。

“自然の静けさや星空の美しさ”と“都市の便利さやにぎわい”を両立させ、市民が主体的に関わりながら夜間も安心・快適で魅力的な街並みづくりを目指します。

『星人も輝く白河』

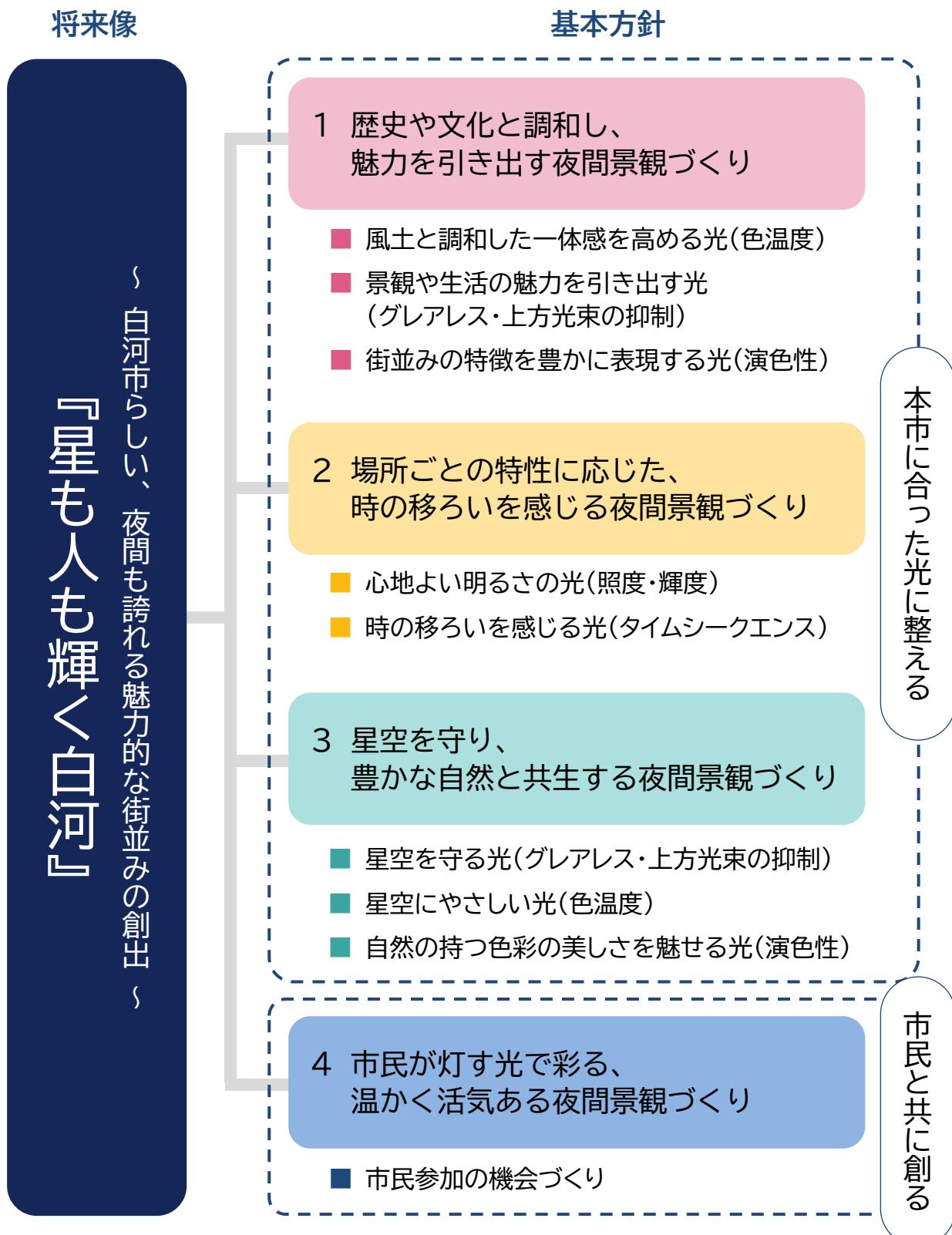
～白河市らしい、夜間も誇れる魅力的な街並みの創出～

市街地においては、住民や来訪者を迎える温かな光や小峰城跡のライトアップの光、城下町の情緒ある光があり、星や月も見えるような、安心して本市の魅力を楽しみながら歩ける夜間景観を整え、夜間の経済活動の活性化を図ります。郊外においては、過度な明るさを避け、自然環境が守られるよう配慮した夜間景観を整えていきます。



2. 夜間景観づくりの基本方針

魅力的な夜間景観づくりに向けた将来像の実現を目指すため、4つの基本方針を定め、既存の光を本市に合った光に整えていくとともに、市民、事業者と共に新たな本市の光を創り出します。



〈方針1〉歴史や文化と調和し、魅力を引き出す夜間景観づくり

本市固有の歴史、文化、祭事など風土の魅力を引き立てるため、暖かく統一された色温度を基調とした灯具を街並み全体に導入します。特に、白河提灯まつりとの親和性を高めるような暖かな光のトーンを基本とし、まぶしさを抑制した照明で街並みや、小峰城跡をはじめとする歴史的景観の魅力が際立つよう配慮します。また、歴史的な建造物や文化的拠点など、特に景観価値の高い箇所には、自然光での見え方に近い演色性の高い灯具を用い、本市ならではの魅力を色鮮やかに表現します。

〈方針2〉場所ごとの特性に応じた、時の移ろいを感じる夜間景観づくり

白河駅前や小峰城跡、新白河駅前など、それぞれの地域が持つ特性や機能に合わせて適切な光を設定し、市民の暮らしや観光の利便性、安全性を向上します。また、場所だけでなく、夜間の時間帯による状況の変化を考慮し、時間帯ごとに必要とされる明るさを調整することによって、市民や来訪者が快適に夜を楽しめ、エネルギーの効率化にもつながる夜間景観を実現します。

〈方針3〉星空を守り、豊かな自然と共生する夜間景観づくり

まぶしさを抑えた暖かみのある光を中心に活用することで、星空や月明かり、螢の光など夜間の美しい自然環境との共生を目指します。あわせて、上方への光の漏れを抑えた照明を採用し、光害への影響を最小限にします。また、演色性の高い灯具を用いて、樹木や草花、水辺などの自然景観を生き生きと表現し、自然と調和した夜間景観を形成します。

〈方針4〉市民が灯す光で彩る、温かく活気ある夜間景観づくり

行政・民間事業者・市民が協働し、街全体で魅力的な夜間景観を形成します。特に、市が中心となり連携体制を構築し、市民や事業者による夜間景観の取組みを促進する事業や支援制度を実施します。また、市民が気軽に参加できるような機会づくりや、さらには景観まちづくりの担い手となる人材の育成など、市民と行政が相互に関係性を深める取組みを展開し、持続可能で魅力的な夜間景観づくりを進めます。

第3章 夜間景観形成の方針



南湖公園の夕暮れ

1. 夜間景観形成の基本的な考え方

〈方針1〉歴史や文化と調和し、魅力を引き出す夜間景観づくり

■ 風土と調和した一体感を高める光(色温度)

2,700K～3,500K(電球色から温白色程度)を基本とする

市全体を暖かい色合いの光に統一し、本市の風土との調和や一体感を高めることで、市民が安心感や愛着を感じ、来訪者が思いやりやおもてなしの心を感じられる空間を演出します。市内の全エリアにおいて暖かく心地よい色温度である2,700K～3,500K(電球色から温白色程度)を基本として設定します。

暖かな色温度は、白河提灯まつりの提灯の光と親和性が高く、統一感のある雰囲気を演出できます。また、青白い光は、夜間の睡眠を促すホルモン(メラトニン)の分泌を妨げ、体内時計が乱れやすいため、夕焼けのような暖かな色温度の灯具を選定することで、人々の健康に配慮します。



「色温度」とは

「色温度」とは、光の色味を数値で表したもので、単位はケルビン(K)で表します。数値が低いほど暖かみのあるオレンジ色に近く、高くなるほど青白い色味になります。例えば、ろうそくの光(約2,000K)や夕日(約2,000～3,000K)のような暖かい光はリラックス効果や安心感をもたらし、昼間の青空の光(約6,000K以上)のような青白い光は集中力や活動的な気分を高める効果があります。

夜間景観においては、空間の印象や雰囲気、動植物の生育環境等に大きく関係するため、灯具の色温度を適切に選ぶことが重要です。

「体内時計」と色温度の関係について

「体内時計」とは、人間の様々な生理現象を調節する生体システムで、約24時間の周期となっています。人の体は、朝の光(特に青白い光)や食事・活動のタイミングなどの刺激によって、睡眠・覚醒、体温・血圧などを調整しています。体内時計が整うことでホルモンバランスや自律神経が安定し、健康の維持につながります。

夜間景観においては、日没後の自然光に近い暖かな光(低めの色温度)を選び、明るさと点灯時間を抑えることで、体内時計を乱れにくくすることが大切です。

■ 景観や生活の魅力を引き出す光(グレアレス・上方光束の抑制)

周辺や上空への配光を適切に制御した設えとする

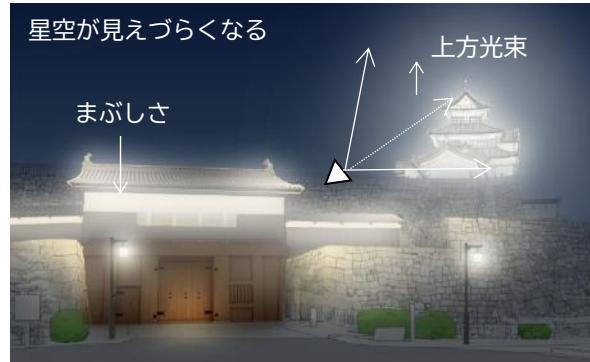
周辺や上空に漏れる不要な光を抑えるため、適切な配光制御により、照らすべき対象に光を効率的に当てることでまぶしさを抑制し、落ち着いた柔らかな光で照らされた街並みを演出します。歩行者の姿や街並みの背景を印象的に照らし、本市が誇る歴史や文化、祭事などの歴史景観の魅力を引き立たせることで、夜間も特別な光景を生み出します。また、光源からの余計な光を抑えることで、月明かりや星空を守り、美しい自然景観を保全します。

良い例



上方光束がなく、光源のまぶしさを感じにくい照明

悪い例



上方光束のある、光源のまぶしさを感じる照明

「光害」とは

「光害」とは、照明の明るさや設置方法、配光が不適切なために、景観や人、動植物などに様々な悪影響を及ぼすことです。星空の見えづらさやドライバーの視界不良、動植物の生育環境の悪化、エネルギーの無駄づかいなどが挙げられます。

夜間景観においては、光害を防ぐために、目的外の方向への配光制御、周辺環境に合った明るさや色の選択、不要な時間帯の消灯など、不必要的光を減らし、本当に必要な場所を効率的に明るくすることが重要です。

「グレアレス」とは

「グレアレス」とは、目に入ると不快感や視認性の低下を引き起こすようなまぶしさ（＝グレア）を抑制することです。

夜間景観においては、まぶしさが、空間の快適性や人間の身体的な負担、動植物の生育環境等に大きな影響を与え、光害を招く要因となることから、光の強さや角度を適切に調整することが重要です。

「上方光束」とは

「上方光束」とは、照明器具等から照射される光束のうち、水平よりも上方に向かう光束のこと、グレアの一種です。

光害を引き起こし、エネルギーの無駄遣いにもつながるため、夜間景観においては、これらの悪影響を防ぐために、上方光束をできる限り抑制し、下方への光配分を重視することが望ましいとされています。

■ 街並みの特徴を豊かに表現する光(演色性)

演色性は Ra80 以上を基本とする
特に歴史景観や人々の生活活動が活発な場所では Ra85 以上と設定する

演色性の高い光により、小峰城跡の石垣や歴史的建造物の格子や障子などの街並みの特徴となっている要素の質感や色合いを鮮明に映し出すことで魅力を伝え、人々の生き生きとした暮らしの風景を豊かに表現します。演色性は Ra80 以上を基本とし、特に歴史景観や人々の生活活動が活発な場所では Ra85 以上に設定します。

良い例 演色性が高い (Ra90 程度)



色や質感を感じられる

悪い例 演色性が低い (Ra70 程度)



色や質感を感じられない

「演色性」とは

「演色性」とは、光が対象物の色をどの程度自然光で見た色に再現しているかの度合いです。「Ra」という指標で表し、100に近いほど再現度が高く、一般的に Ra80 以上は演色性が高いとされています。

夜間景観においては、対象物の美しさに関わるため、建物や草木の緑を鮮やかに見せるには、演色性を高めることが重要です。

〈方針2〉場所ごとの特性に応じた、時の移ろいを感じる夜間景観づくり

■ 心地よい明るさの光(照度・輝度)

光の明るさは、場所ごとの特徴や機能、役割に応じて設定

画一的な明るさを設定するのではなく、城下町、商業地、住宅地、幹線道路、遊歩道など、場所ごとの特徴や機能、役割に応じた最適な明るさを設定することで、視覚的に心地よくバランスのとれた光環境が形成され、人々が快適かつ魅力的に感じる夜間景観を創出します。

良い例



悪い例



「照度」・「輝度（きど）」とは

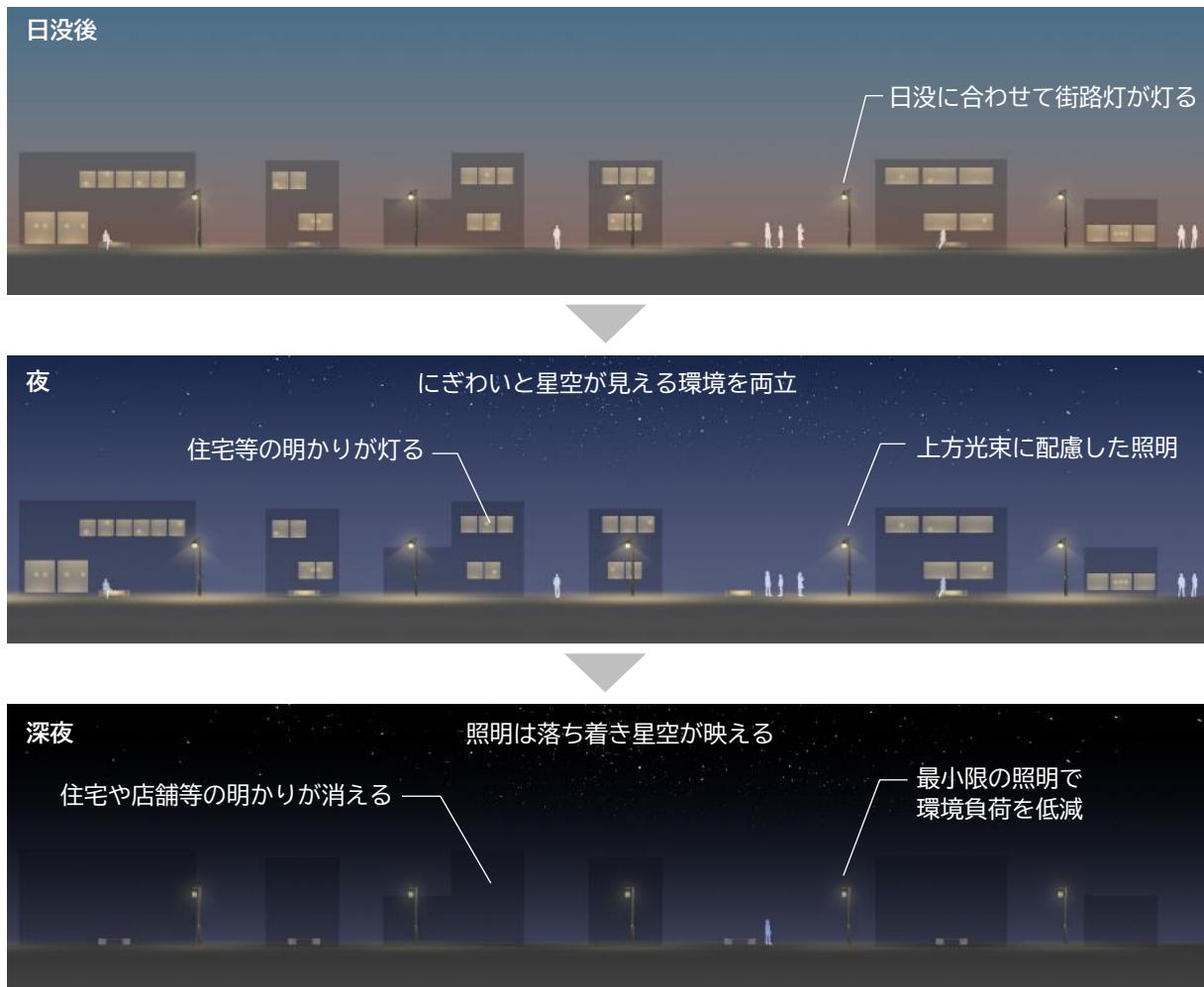
「照度」とは、「面が受ける光の量」を指し、単位はルクス (lx) で表します。「輝度」とは、光源や光を受けた面がどの程度「明るく輝いて見えるか」を測定する指標で、単位はカンデラ每平方メートル (cd/m²) で表します。

夜間景観においては、照度や輝度が低すぎると歩行者や対象物、ディスプレイの内容が見えづらくなり、高すぎるとまぶしさにつながるため、適切な照度や輝度に調整し、安全で快適な空間をつくることが重要です。

■ 時の移ろいを感じる光(タイムシークエンス)

時間に合った光の明るさや色を選ぶ

時間帯に応じて、光の明るさや色を適切に調整します。一定の明るさを継続するだけではなく、時間の流れに応じて変化する人々の活動状況に合わせて光を調整することで、街の持つ個性が際立ち、魅力の向上につながります。夕方は少し賑やかな雰囲気、深夜は落ち着いた雰囲気、季節やイベントに応じた非日常的な雰囲気など、時間ごとに合った演出をすることができることに加え、エネルギーの効率化を図ります。



「タイムシークエンス」とは

「タイムシークエンス」とは、夜間景観においては時間帯によって明るさや色を変化させることです。夜間景観においては、自然光や人々の活動状況などに応じて光を変化させることで、時間ごとに合った場の雰囲気を創り出すことができ、エネルギーの効率化にも効果があります。

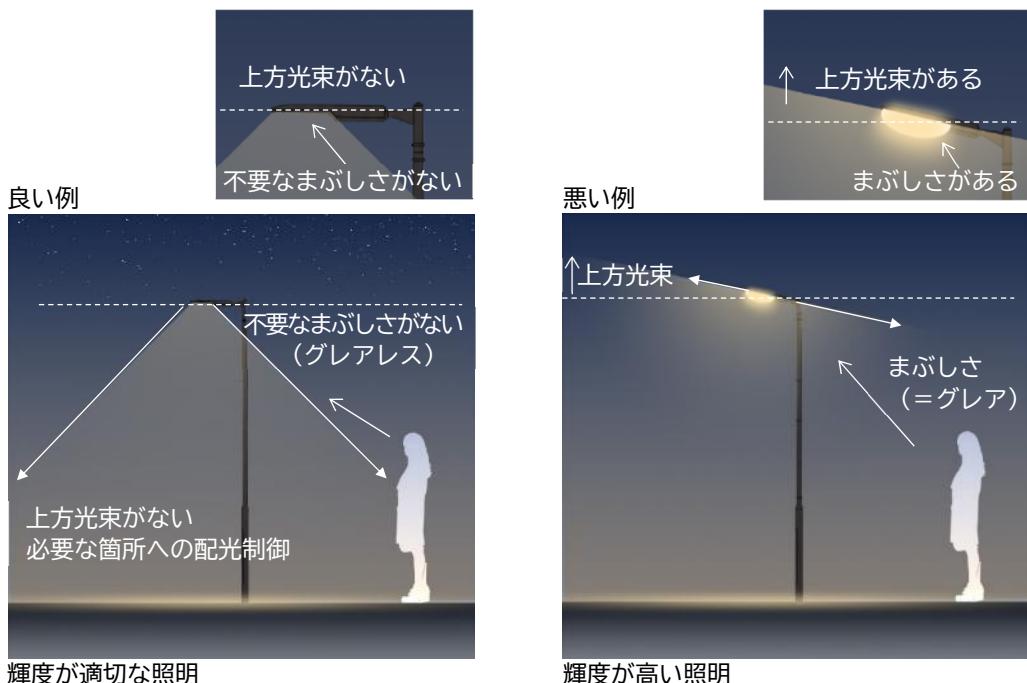
〈方針3〉星空を守り、豊かな自然と共生する夜間景観づくり

■ 星空を守る光(グレアレス・上方光束の抑制)

周辺や上空への配光を適切に制御した設えとする

まぶしさを感じる照明は視界を妨げ、星空の美しさを損なう原因となることから、適切に配光制御した照明器具を用います。また、上方光束は夜空を明るくし、星空が見えづらくなる等の光害につながるため、上方への光の漏れを適切に抑制した照明器具を採用します。

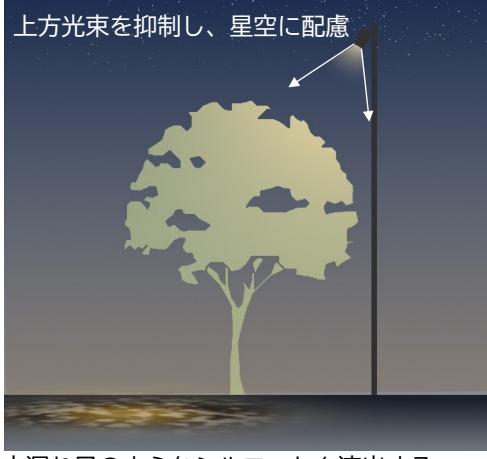
まぶしさや上方光束を抑制することで、夜間における快適な視環境をつくり、星空や周囲の自然環境に配慮します。



〈樹木の照明イメージ〉

通常時

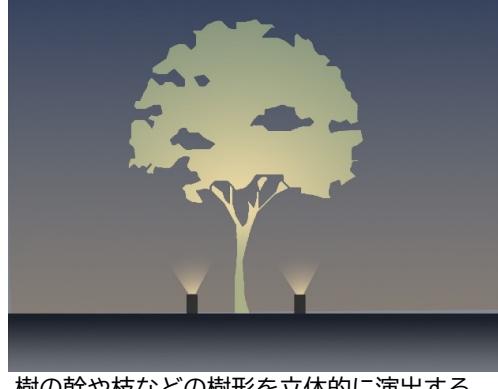
下方に向けた照明を推奨



イベント時

場所や目的、時間を限定した照明

星空や周囲への影響を少なくするため、
照明の設置場所や数に配慮する



■ 星空にやさしい光(色温度)

2,700K～3,500K(電球色から温白色度)を基本とする

星空の保護や自然環境との共生に適した暖かな色温度 2,700K～3,500K(電球色から温白色度)を推奨します。暖かな色温度の光を用いることで、青白い色温度の光よりも上方への拡散を抑制し、星空への影響を抑え、夜空本来の美しさを引き立たせます。

良い例



悪い例

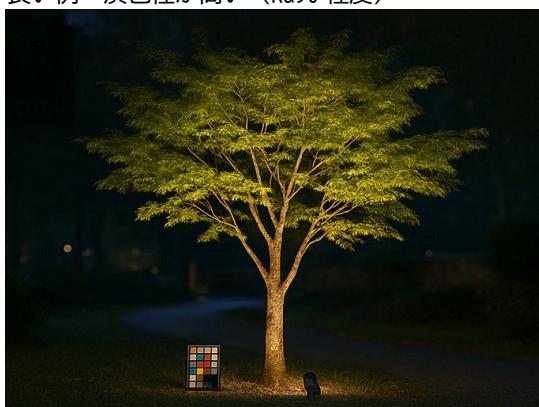


■ 自然の持つ色彩の美しさを魅せる光(演色性)

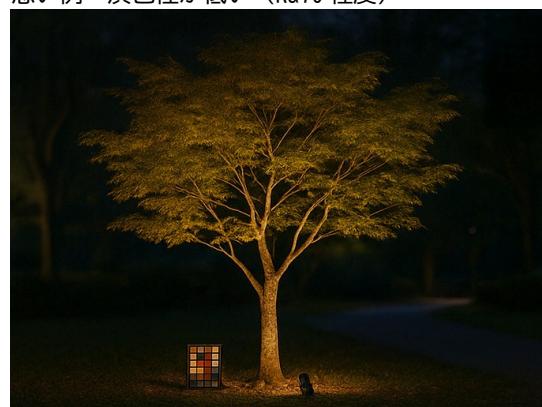
演色性は Ra80 以上を基本とする

演色性は Ra80 以上と選定します。演色性が低い灯具の場合、植物や水面などの色がくすみ、自然本来の豊かな表情が損なわれてしまうことから、演色性の高い灯具を用いることで、樹木や草花、水辺など自然が持つ本来の色彩を鮮やかに美しく表現します。

良い例 演色性が高い (Ra90 程度)



悪い例 演色性が低い (Ra70 程度)



〈方針4〉市民が灯す光で彩る、温かく活気ある夜間景観づくり

■ 市民参加の機会づくり

日常生活や特別な日の中で、市民が自ら灯す

「市民が灯す光」とは、住民一人ひとりが日常の暮らしや特別な日に自発的に灯す明かりのことです。日常生活の光には、住宅の窓から漏れる明かりや、マンションや住宅のエントランスを明るく彩る光、路地を温かく照らす行燈などがあり、人々の生活感や、街の安心感、温もりを演出します。イベント時の光には、地域のお祭りや催しごとに市民自身が飾る提灯やイルミネーションなどがあり、華やかな街の雰囲気をつくります。

市民が自ら街を演出するこれらの活動を促進するため、私有地や道路、河川などの利用に向けた調整や自発的な夜間景観づくりを支援する制度や事業などを進めます。市民が灯す光によって、市街地のにぎわいや温かな景観を創出し、人々の暮らしをさらに豊かにすることで、市全体の価値を高めます。



脇本陣ライトアップ



大谷忠吉本店ライトアップ



谷津田川ライトアップ

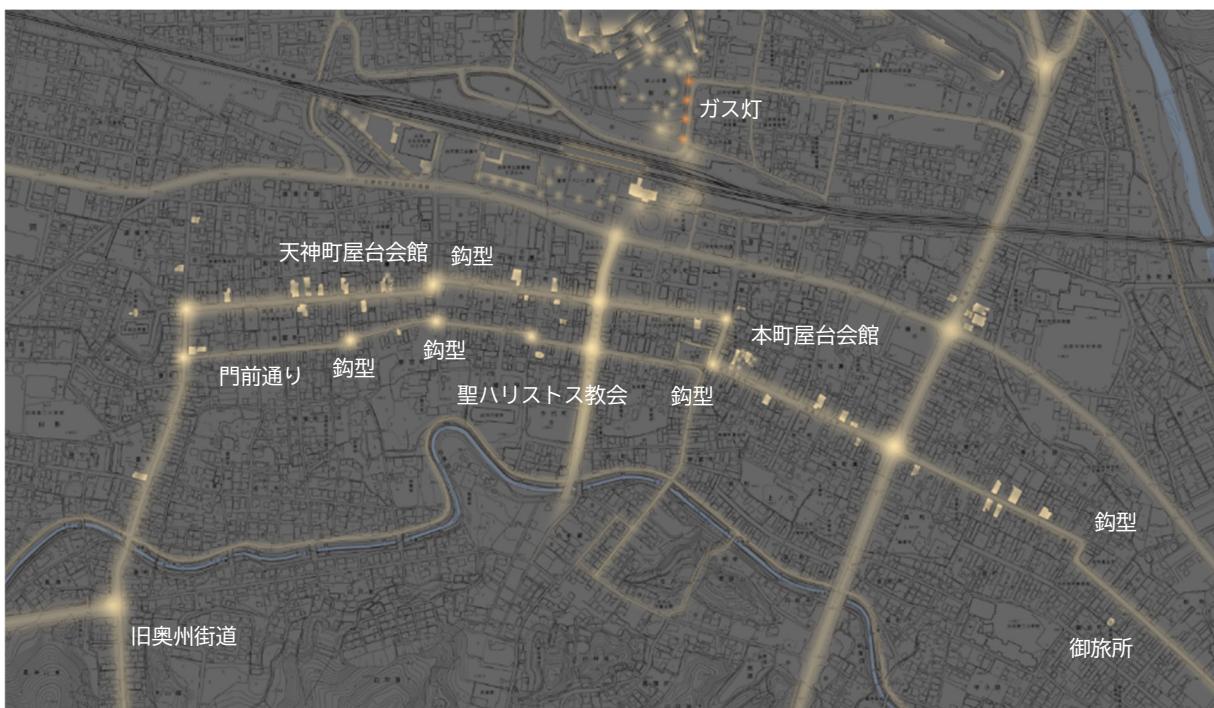
2. 景観特性ごとの方向性

(1)歴史景観

歴史景観では、歴史的建造物を中心とした街並みが日常を彩る光と調和し、温もりある夜の景観を生み出します。屋台（山車）会館や集会所などの照明、玄関アプローチなどの照明は、街並みの魅力を高めるとともに、地域の人々が気軽に集える居場所を生み出します。市民とともに通年で彩り豊かな夜間景観の創出を目指します。

■ 風土と調和した一体感を高める光(色温度)

- ・ 色温度を揃え、道路照明と歴史的建造物の演出が調和した一体感のある街並みを形成する。
- 〈平面イメージ〉



〈断面イメージ〉



暖かく心地よい色温度（電球色から温白色程度：2,700K～3,500K）を基本として設定する

■ 景観や生活の魅力を引き出す光(グレアレス・上方光束の抑制)

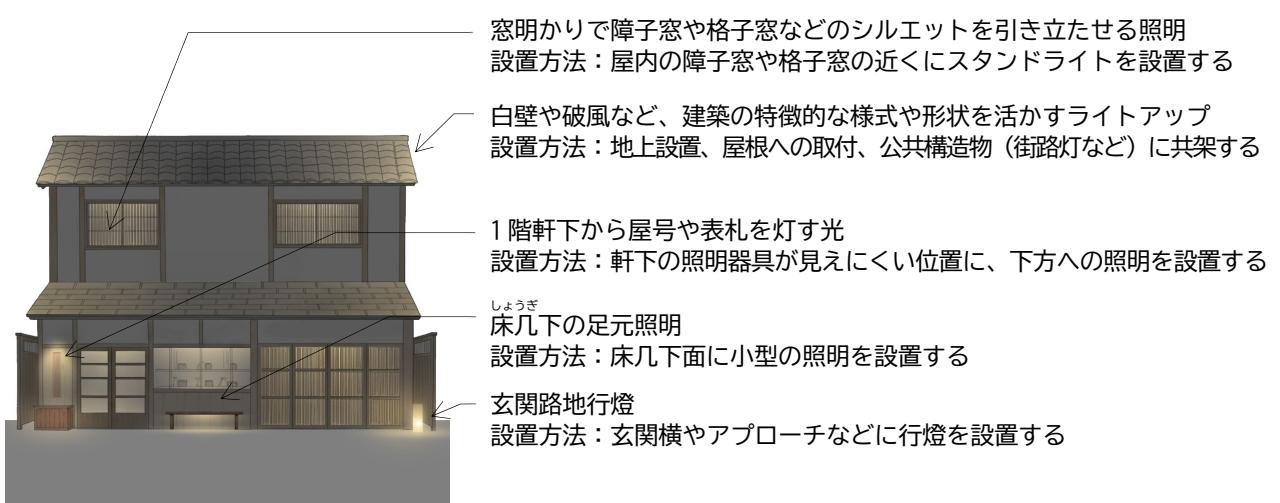
■ 街並みの特徴を豊かに表現する光(演色性)

- ・ 光のまぶしさや輝度を抑えた照明で街並みを演出することで、歴史景観の魅力を引き立てる。
- ・ 演色性の高い灯具を選定し、歴史的建造物の格子や障子などの街並みの特徴となっている要素の質感や色合いを引き立て、人々のにぎわいを創出する。

〈街並みのイメージ〉



〈町家のイメージ〉

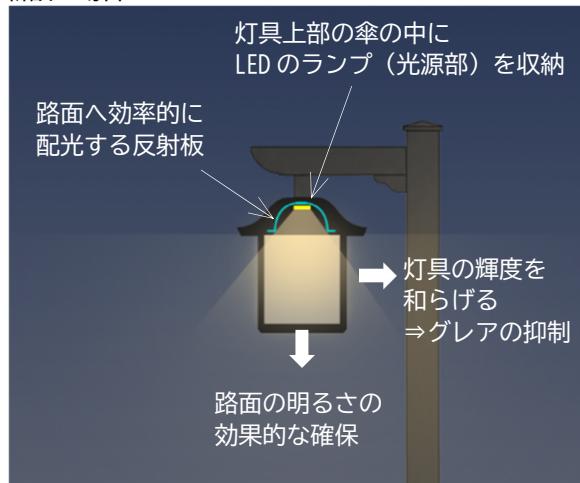


〈各町の街路灯の光学条件の統一〉

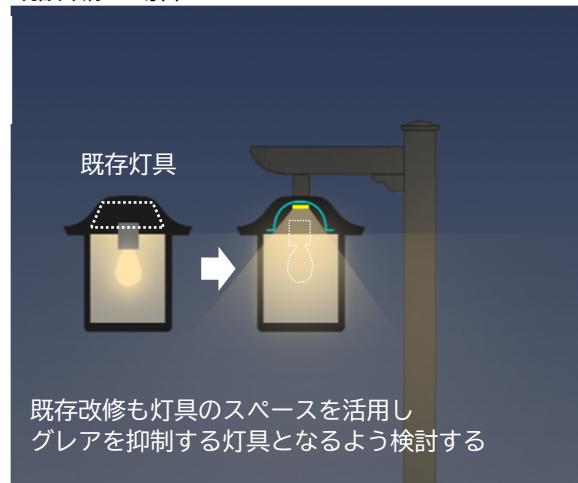
- ・ 各町の特徴的な街路灯を活かしつつ、色温度などを統一することで街並みの魅力を創出する。
- ・ 配光制御により上方光束やまぶしさを抑制し、輝度を和らげることで路面の明るさを効果的に確保できる照明器具への変更を検討する。



新設の場合



既設改修の場合



■ 市民参加の機会づくり

〈各町の街路灯を活かした季節演出例〉

- 既設の街路灯の柱に構造許容内で、バナーやイルミネーションなどの仮設装飾を検討し、通りのにぎわい創出を図る。
- 新設の街路灯はにぎわい創出に寄与できるような設えを検討する。

既設街路灯の演出例 新設街路灯におけるにぎわい演出例



〈行燈等の設置〉

- 日常の景観演出に加え、イベントや白河提灯まつり時に行燈の設置などを行うことで、一体感のある非日常の雰囲気を演出する。

通常時



窓明かりや玄関に置かれた行燈が日々の景観を彩る

イベント時



市民と協働して照明や提灯などで白壁や破風を照らし、

イベントに合わせた装いで祭りとの一体感を高める

さらに、白壁や破風を照らす照明や行燈などで、イベントや祭りとの一体感を高める

(2)都市景観

都市景観では、本市の玄関口である新白河駅前を温もりある光で包むことで、来訪者を迎えるとともに、商業のにぎわいを感じられる雰囲気を演出します。大規模な施設や建造物（民間施設を含む）や商業集積地、住宅地、工業地においても、明るさだけでなく色温度や配光、上方光束、まぶしさに配慮した照明、照明手法を用いることで、市全体の街並みとの調和を図ります。

■ 風土と調和した一体感を高める光(色温度)

■ 心地よい明るさの光(照度・輝度)

- ・ 各灯具の色温度を揃えることで、一体感のある街並みを形成する。
- ・ 新白河大通り、商業地、住宅地など、場所に応じた明るさ設定を行う。

〈平面イメージ〉



新白河大通り、商業地、住宅地の色温度を統一する

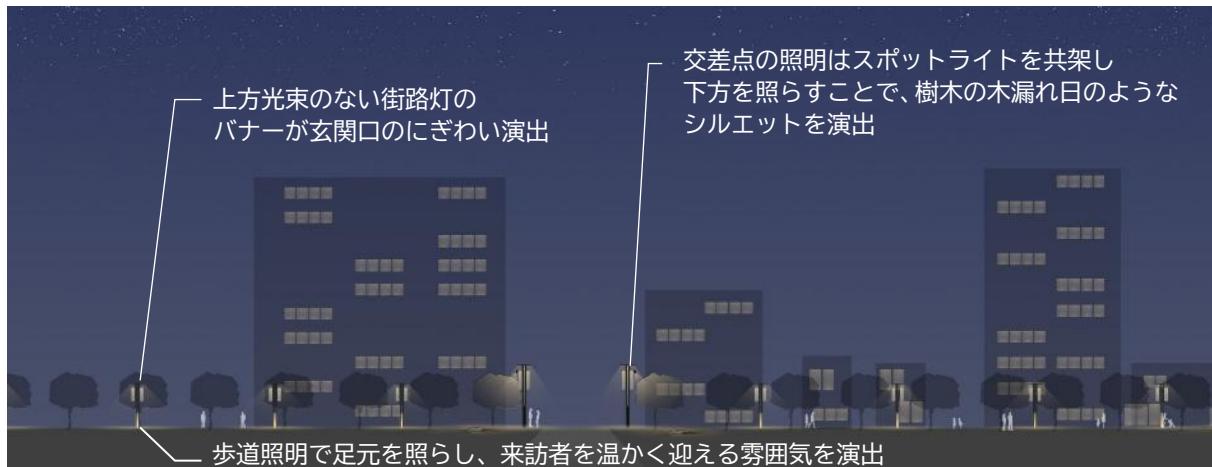
■ 景観や生活の魅力を引き出す光(グレアレス・上方光束の抑制)

■ 星空を守る光(グレアレス・上方光束の抑制)

■ 時の移ろいを感じる光(タイムシークエンス)

- ・ 不要なまぶしさや上方光束を抑えた照明で街並みを引き立て、星空を守る。
- ・ 時間帯に合わせて照明の明るさを調整することで、人々の活動状況に合った光を演出するとともに、エネルギーの効率化を図る。

〈新白河大通りの照明イメージ〉



〈商業地の照明イメージ〉



〈大規模な施設や建造物（民間施設を含む）の照明イメージ〉



〈工業地の照明イメージ〉

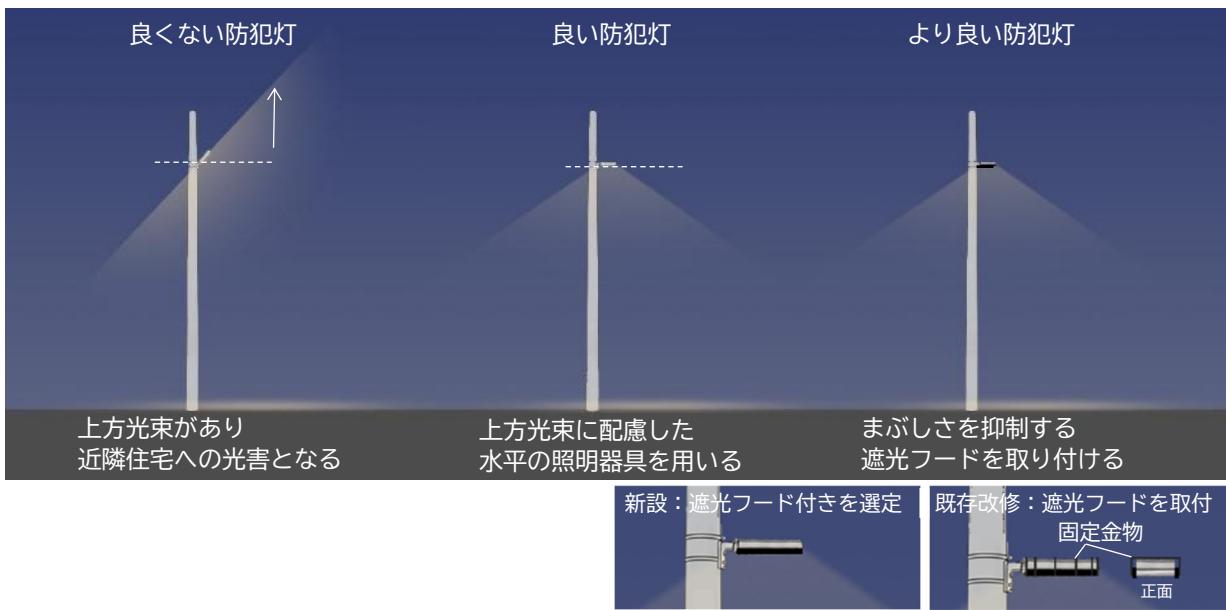
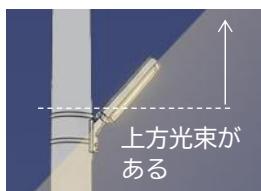


〈住宅街の照明イメージ〉



〈防犯灯の配置・照明イメージ〉

- 市民の家路を照らす防犯灯を通学路など必要な場所に配置する。
- 住宅地では人々の体内時計の乱れや安眠への影響に配慮し、色温度を3,000Kに統一する。
- 灯具は路面を効率的に照らす水平配光とし、上方への光を抑制することで星空を守る。
- 歩行者やドライバーの感じるまぶしさを軽減するとともに、住宅への光害にも配慮する。



〈看板照明について〉

- ・ 看板照明の設置により、看板の視認性の向上につながりますが、周辺環境に応じて、適切な明るさ、照明手法を設定する。
- ・ 上方光束を抑えるための設えや配光制御が望ましい。

〈デジタルサイネージについて〉

- ・ 輝度が高いものは、周辺環境に与える影響が大きいため、適切な輝度設定を行う。
- ・ 激しい動きや過度な点滅を伴う演出を避けることが望ましい。
- ・ 設置方法や明るさ、点灯時間などの具体的な基準や規制方法については、周辺環境への影響や安全性に配慮しながら、今後検討を行う。

(3)田園景観

田園景観では、広がる田畠や遠景の山々など、自然と人々の生活が調和した夜間景観を創出します。山のシルエットや星空を感じられるよう、色温度や配光に配慮した灯具を選定し、自然の魅力を損なうことなく人の生活が感じられる景観を形成します。

■ 星空を守る光(グレアレス・上方光束の抑制)

■ 星空にやさしい光(色温度)

- 暖かみのある色温度することで、上方への拡散を抑制し、星空への影響を抑える。
- 配光制御により遠景の山のシルエットと星空が見える景観を創出する。



■ 心地よい明るさの光(照度・輝度)

- 夜間でも安全に歩ける環境のため、既存インフラを活かして下方に照らすことで、上方光束や住宅への光害を抑制しながら、足元の明るさを確保する。
- 案内サイン等を下方に照らし、目線の高さにも明るさを確保する。



(4)自然景観

自然景観では、豊かな自然環境を保全するため、星空や動植物に配慮した灯具を選定します。上方光束を抑制するための下方に照らす照明、過度にまぶしい光を抑えた暖かな色温度の灯具で、自然に配慮したやさしい光を推奨します。また、照明器具の更新に合わせて、電源設備を整備することで、イベントや祭事の際に空間演出として活用できる環境を整えます。

■ 星空を守る光(グレアレス・上方光束の抑制)

■ 星空にやさしい光(色温度)

■ 自然の持つ色彩の美しさを魅せる光(演色性)

- ・ 暖かみのある色温度とすることで、上方への拡散を抑制し、星空への影響を抑える。
- ・ 星空や動植物などの生態系に配慮した、上方光束やまぶしさがない最小限の光で明るさを確保する。
- ・ イベントや景観資源に合った光の演出を行い、回遊性を高める。夜間の利用状況に応じて、照明の設置を検討する。

〈白河関の森公園のイメージ〉



〈白河の関のイベントイメージ〉



(5) 眺望景観

眺望景観では、全体を暖かな色温度で統一し、まぶしさを抑えながら、小峰城跡三重櫓や星空を際立たせます。小峰通りからの眺望を遮らないよう、街路灯は輝度を抑えるとともに、上方への光や過度な明るさを避け、演色性の高い灯具で街並みの魅力を引き立てます。これにより、小峰城跡と市街地、星空が調和した本市を代表する夜間景観を形成します。

■ 風土と調和した一体感を高める光(色温度)

■ 星空にやさしい光(色温度)

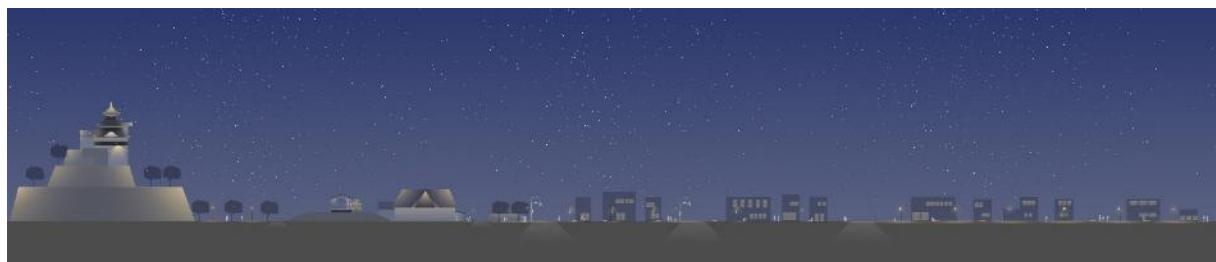
- ・ 小峰城跡三重櫓が周囲の景観と調和するよう、暖かな色温度で照らし、街並みと一体的な景観を創出する。
- ・ 暖かな色温度の灯具を用いることで、上方拡散を抑制し、星空が見える景観を創出する。

〈平面イメージ〉



小峰城跡、市街地の色温度を統一する

〈断面イメージ〉



小峰城跡、市街地の色温度を統一する

■ 景観や生活の魅力を引き出す光(グレアレス・上方光束の抑制)

■ 星空を守る光(グレアレス・上方光束の抑制)

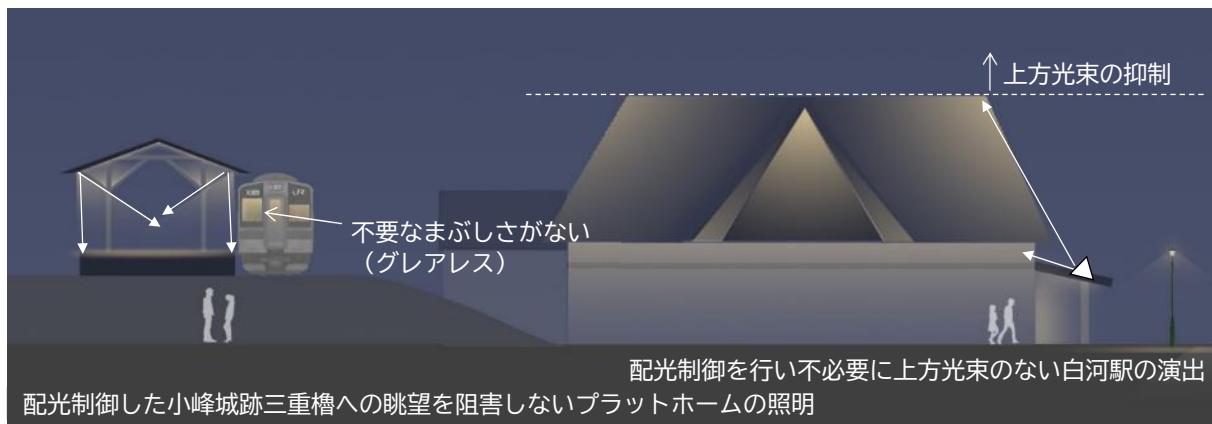
■ 街並みの特徴を豊かに表現する光(演色性)

- ・ 小峰城跡三重櫓への眺望を阻害しないために、輝度やまぶしさ、上方光束に配慮する。
- ・ 街並みの魅力が感じられるように演色性の高い灯具を使用する。
- ・ 上方光束への配慮は、星空を守ることにもつながり、小峰通りから小峰城跡三重櫓と星空が広がる景観を創出する。

〈広域イメージ〉



〈白河駅の照明イメージ〉



〈小峰通りの照明イメージ〉

配光制御した街路灯まぶしさや上方光束を抑え、眺望や星空を阻害しない



(6) 景観軸

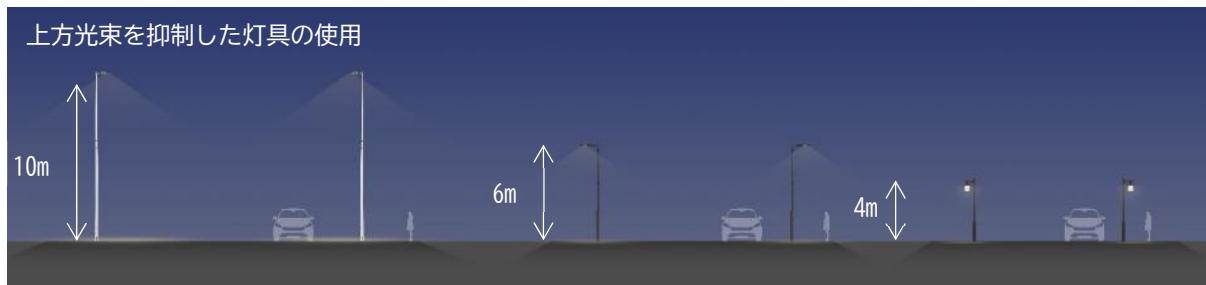
景観軸では、都市の骨格を形成する道路に対して、統一した色温度と適切な配光制御により、整然とした景観を創出します。暖かな色温度と上方光束を抑制した光は、周辺の住宅や星空への光の拡散を防ぐ効果があります。また、河川では特徴的な橋梁に既存の照明設備を活用し、下方を照らす演出を施すとともに、イベント時にぎわいのある雰囲気づくりを行います。

■ 星空を守る光(グレアレス・上方光束の抑制)

■ 星空にやさしい光(色温度)

■ 風土と調和した一体感を高める光(色温度)

- ・ 道路照明は適切に配光制御された上方光束のない、暖かな色温度の灯具を選定する。
- ・ 照明は道路構造等に応じて灯具の向きを適切に設定する。なお、街路灯は「街灯の設置に係る推奨基準」に基づき、街並みと調和したものを選定する。



■ 景観や生活の魅力を引き出す光(グレアレス・上方光束の抑制)

■ 街並みの特徴を豊かに表現する光(演色性)

■ 市民参加の機会づくり

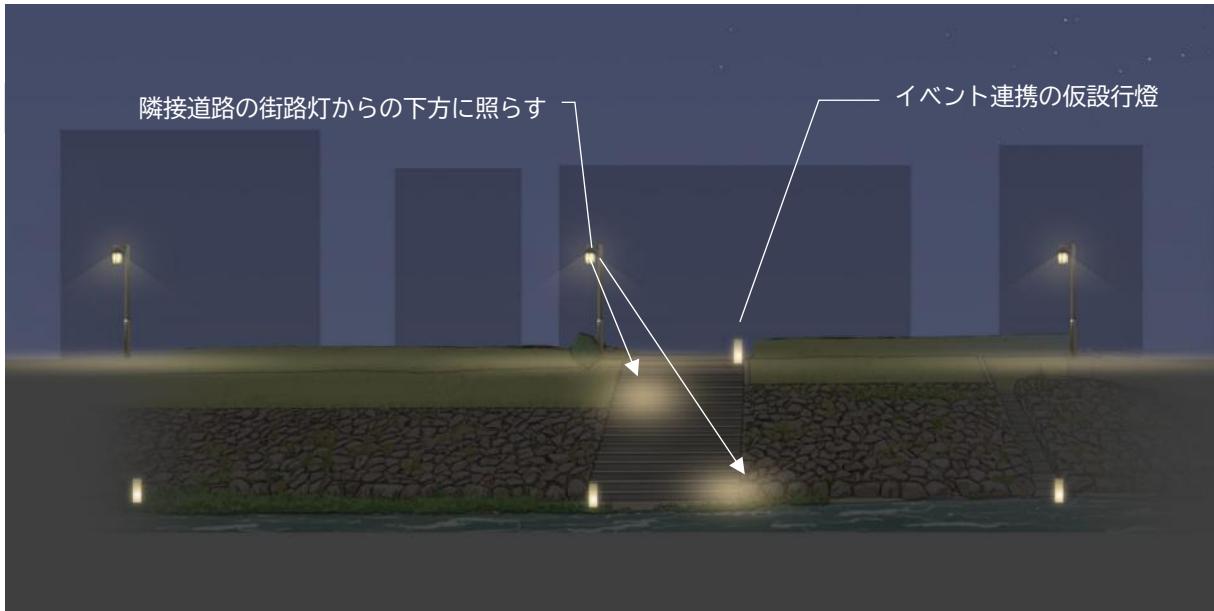
〈橋梁周辺の照明イメージ〉

- ・ 橋梁や橋梁の側面を隣接道路の街路灯から下方へ照らし、街並みの特徴を引き立たせる。
- ・ イベント時には橋のたもとに仮設行燈を設置し、橋梁と親水空間を一体的に演出する。



〈河川沿いの照明イメージ〉

- ・ 照明を下方に照らすことで、河川敷の法面、水面を立体的に魅せる親水空間を演出する。
- ・ 川沿いの通りの照明は、上方光束や住宅への光害を抑制するとともに、河川敷の階段部の足元の安全を確保する。
- ・ イベント時には、階段上部や高水敷に仮設行燈を並べ、水面に反射する光による一体感な空間を演出する。



〈樹木の演出イメージ〉

- ・ 上方光束や住宅への光害を抑制するため、基本的に樹木照明は下方に照らすことを推奨する。



(7)景観拠点

景観拠点では、本市のシンボルである小峰城跡三重櫓や雄大な石垣に対し、光と影を対比させるメリハリのある照明演出をすることで、立体感や質感を際立たせます。ライトアップでは色温度や配光を工夫し、まぶしさや上方光束に配慮した照明器具を用いることで、星空への配慮も行います。

■ 風土と調和した一体感を高める光(色温度)

■ 星空にやさしい光(色温度)

■ 街並みの特徴を豊かに表現する光(演色性)

- ・ 小峰城跡では、三重櫓だけでなく石垣にも暖かな色温度の光で演出を行うことで、一体感のある風景と夜間も安心して散策できる環境を整える。
- ・ 小峰城跡三重櫓や石垣の立体感を引き立てるため、陰影のある光で演出する。
- ・ 演出時に上方光束を抑える配慮や街路灯のまぶしさを抑えることで景観を整え、眺望と星空に配慮すると共に、エネルギーの効率化を図る。

〈三重櫓・清水門及び城山公園内の照明イメージ〉



〈照明の断面配置イメージ〉



〈照明の平面配置イメージ〉

小峰城跡整備に合わせ既設の三重櫓に対する照明も検討
回遊動線に合わせどこから見ても美しい三重櫓の景観を目指す

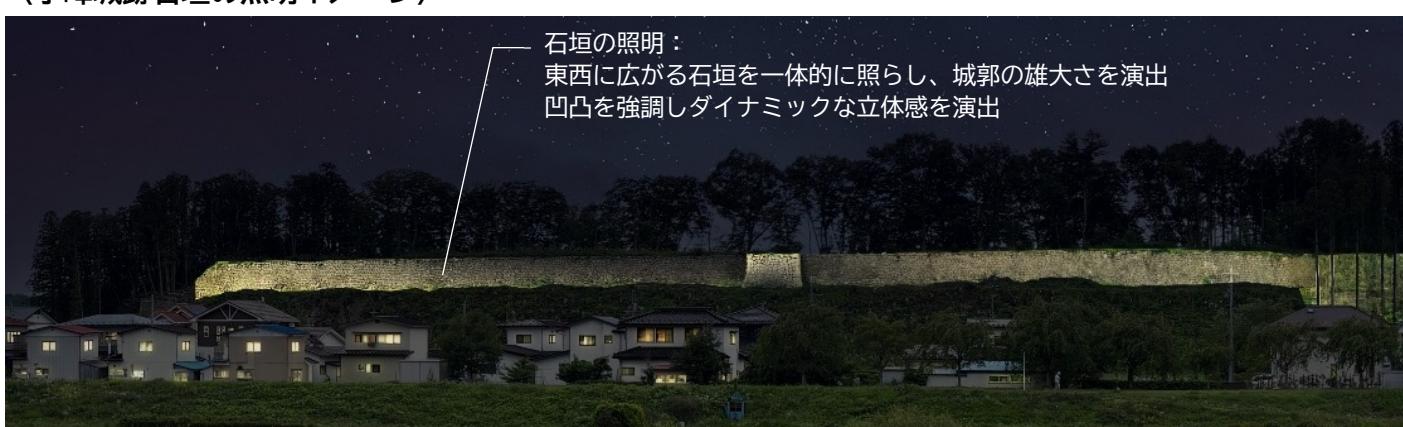


〈灯具平面配置イメージ〉

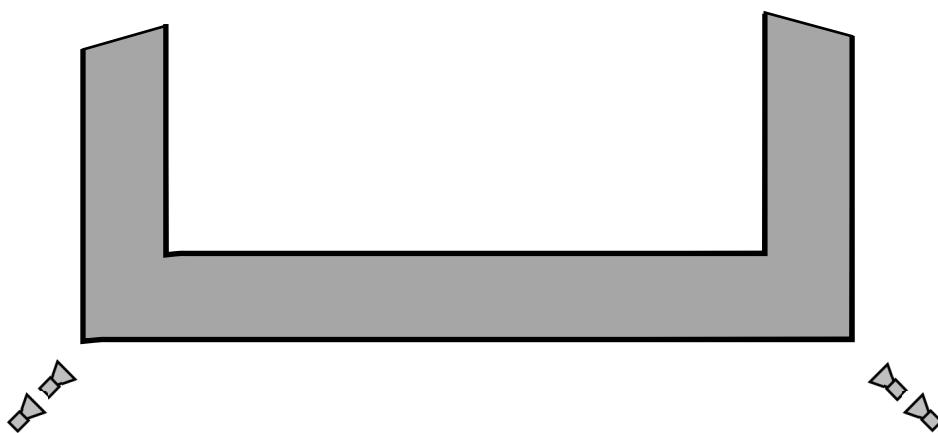


〈小峰城跡石垣の照明イメージ〉

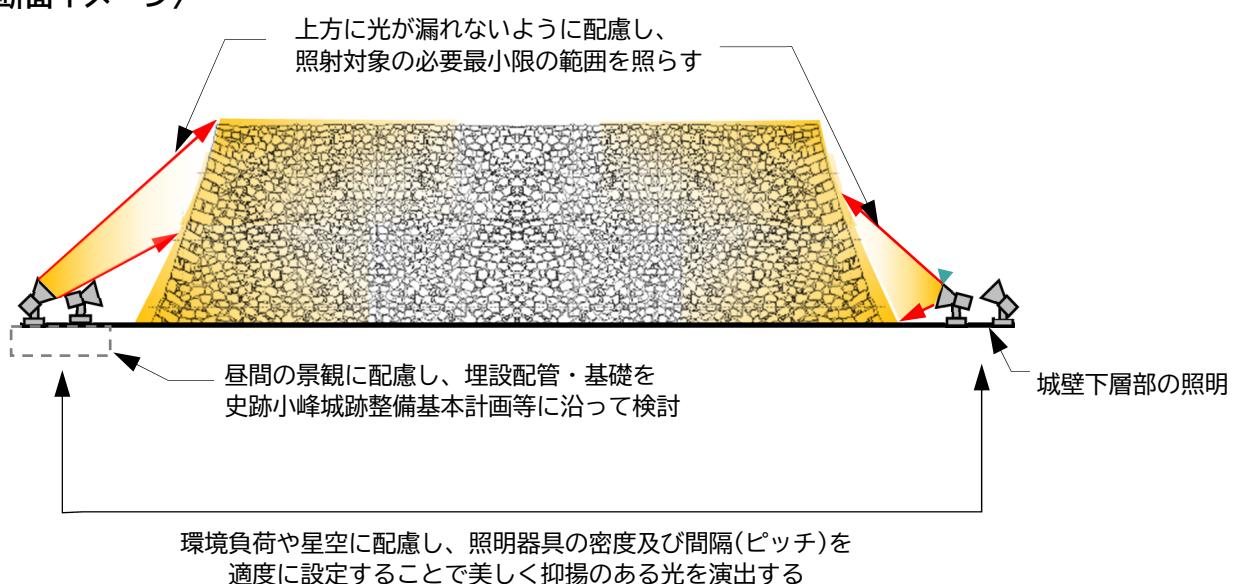
石垣の照明：
東西に広がる石垣を一体的に照らし、城郭の雄大さを演出
凹凸を強調しダイナミックな立体感を演出



〈平面イメージ〉



〈断面イメージ〉



3. ケーススタディ（具体的な空間イメージ）

(1) 小峰通り

本市のシンボルである小峰城跡三重櫓を望む小峰通りでは、色温度・輝度・まぶしさに配慮した照明により、歴史景観と調和した夜間景観の形成を図ります。三重櫓の存在感が引き立つよう、光の向きを制御し、一体感ある景観を創出します。また、歩道の照明や足元を照らすベンチ照明などにより、歩行者にとって安全で落ち着きのある光環境を確保します。イベント時は、行燈や提灯などの暖かな光により、一体感のある雰囲気を演出します。

〈通常時〉



〈拡大〉



〈イベント時〉



〈拡大〉



(2)谷津田川

親水空間である谷津田川では、水辺の魅力を夜間も感じられるよう、道路照明の支柱に共架した照明で橋梁を演出し、夜間も憩える空間を創出します。歩行者が安心して散歩や滞留しやすい明るさを確保しつつ、水面や植栽を引き立てる照明を整備することで、夜間の安全性と快適性を高めます。イベント時は樹木のライトアップや行燈を配置し、谷津田川ならではの趣のある景観を創出します。

〈通常時〉



〈拡大〉



〈イベント時〉



〈拡大〉

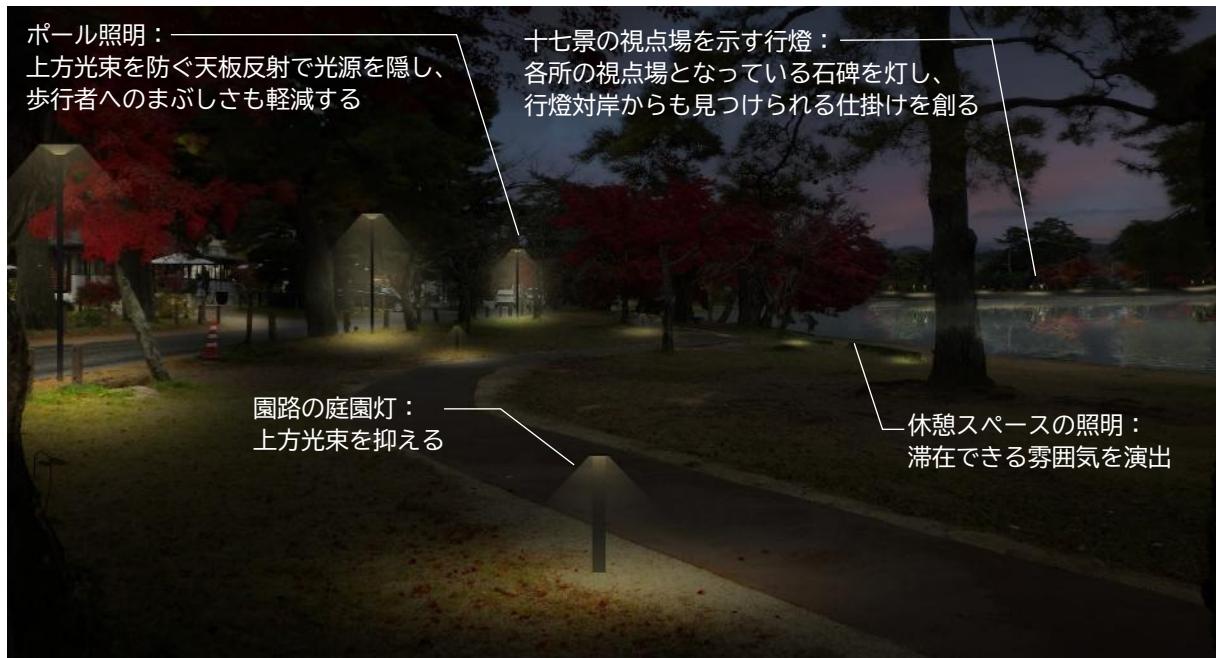


(3)南湖公園

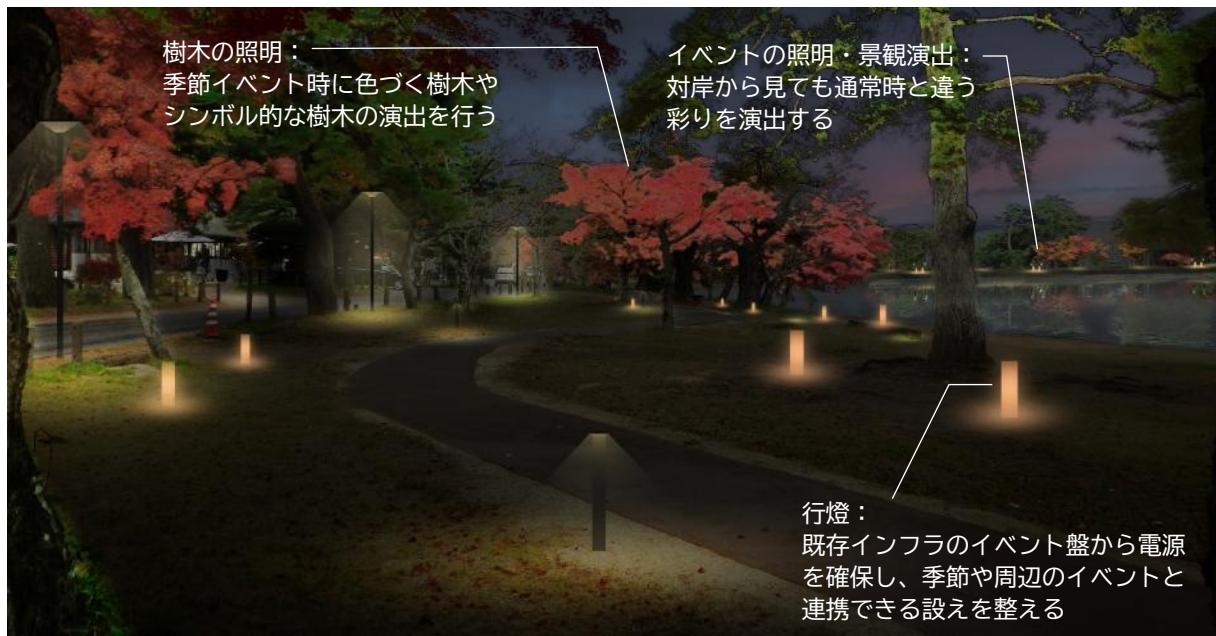
南湖公園は、北東側には翠楽苑や店舗等が立ち並び、東に向かっては那須連山への眺望が広がり、南西側には松・桜並木があります。それらの景観を照らす照明は一律ではなく、場所に応じた明るさにするとともに、星空に配慮して上方光束を抑制し、まぶしさを抑えます。

通常時は、エントランスの温かく迎え入れる光、園路の導く光、南湖十七景などの視点場を灯す光を基本とします。イベント時は、イベント盤から電源を確保して仮設演出に対応するなど、場所や季節ごとの魅力を引き出します。

〈通常時〉



〈イベント時〉



(4)旧奥州街道

旧奥州街道には、歴史的建造物や屋台（山車）会館などの市民に親しみのある建造物に加え、鉤型の街路や各町の街路灯などの特徴のある景観が広がります。また、オープンスペースは市民がよく利用する場となっています。これらの市民にとって親しみのある場所に光を備えることで、本市特有の景観を創出します。また、行燈や外観の演出など、市民協働によるにぎわいのある夜間景観を創出します。

イベント時は、提灯や仮設のベンチ照明、イベントに合わせたバナー、手持ちの提灯などを活用し、一体感のある雰囲気を創出します。

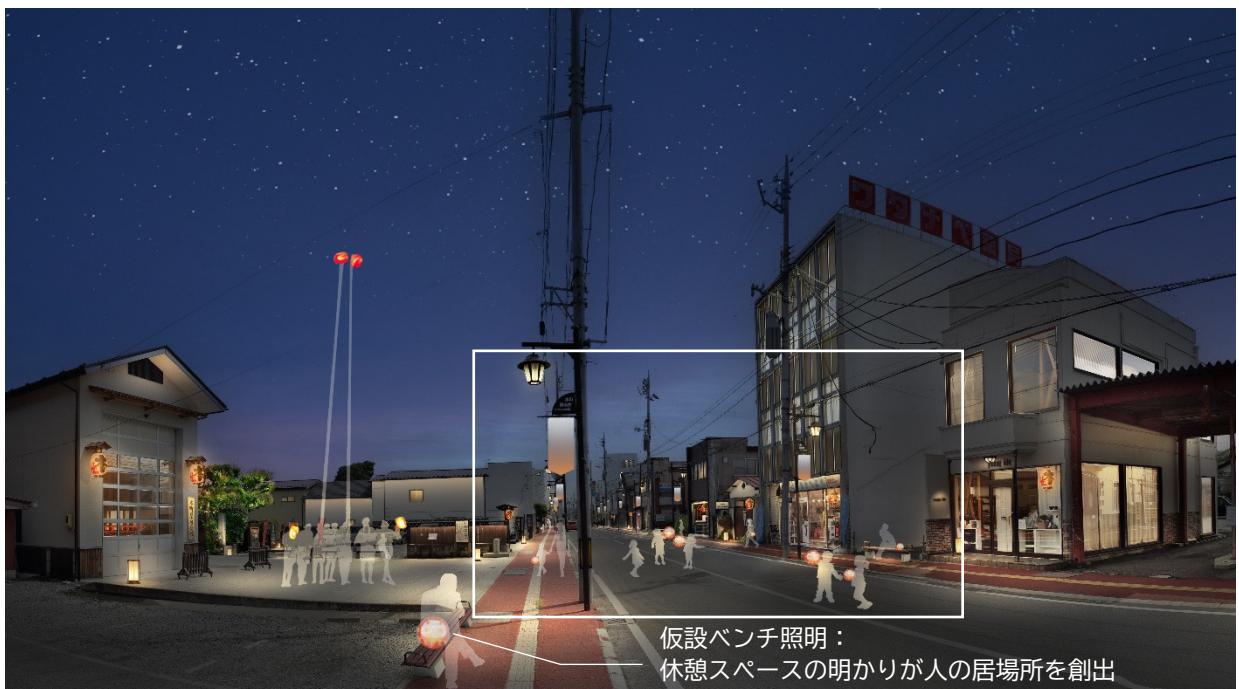
〈通常時〉



〈拡大〉



〈イベント時〉



〈拡大〉



(5)新白河駅前

新白河大通りは本市の玄関口であり、商業が集まるにぎわいのある場所です。にぎわいや来訪者を迎える温かな雰囲気を生み出すため、象徴的なポール照明を設けるほか、ベンチ照明や足元を照らす照明により、歩いて楽しめる景観づくりを進めます。イベント時にはベンチ照明に備えた電源を活用し、照明演出などの華やかな雰囲気を演出します。

〈通常時〉



〈イベント時〉



第4章 将来像の実現に向けて



白河関まつり

1. 計画推進に向けた取組

(1)市民による取組みの促進

■夜間景観づくりの将来像や基本方針等の共有

本市で活動する多くの方と共に、同じ将来像に向かって、方針や基本的な考え方沿って夜間景観づくりを進められるよう、市のホームページなどで本計画を共有します。

■夜間景観づくりに関する取組・支援等の情報発信

市のホームページや広報、SNS 等の様々な媒体を活用し、夜間景観づくりに関する情報を積極的に発信し、夜間景観づくりに対する意識の醸成や機運づくりを行います。

■多様な主体が参画できる機会の創出

景観協定団体、各町内会や地域団体から市民一人ひとりまで、多様な主体がまちづくりを担っています。まちづくり講座や講演会、ワークショップなどを通じて、夜間景観づくりへの理解を深め、誰もが気軽に参画できる機会づくりに努めます。

■夜間景観づくりの担い手の支援・育成

市民の夜間景観づくりへの参画意欲の向上や自発的な活動を促進するため、引き続き景観まちづくり活動の継続的支援や、夜間景観づくりを先導するリーダー育成を検討します。また、景観まちづくりや地域の歴史に関する学習機会などへの参加促進により、若い世代の担い手育成に努めます。

■社会実験の実施

夜間景観づくりの新たな取組みや事業の本格的な導入に先立ち、市民や関係機関等の参加のもと、場所や期間を限定して新たな取組みや事業を試行し、その効果を測るため、必要に応じて社会実験を実施します。

(2) 総合的な施策の展開

■関係機関等との連携体制の構築

国や県、関係機関等との連携に向けて、本市の夜間景観づくりの方針を共有し、実現に向けた取組や照明整備の手法等を調整します。

■市民との協働による独自のルールづくり

魅力的な夜間景観づくりを本計画の方針だけで実現することは困難であるため、場所や時間ごとに適した具体的なルールや仕組みづくりを市民とともに検討します。

■市民が参加しやすい環境づくり

夜間における自宅周辺の暗さの改善や商店街のにぎわいづくりに、市民が参加しやすい環境を整えるため、仮設行燈の貸し出しや、ライトアップに関する情報発信などを行い、意識の醸成や協働のきっかけづくりを行います。

2. 計画の見直し

本計画は、上位・関連計画における方向性の変化や社会情勢の変化などを考慮しながら、必要に応じて見直しを行います。

白河市光のマスタープラン

令和8年3月策定

白河市 建設部 都市計画課
TEL : 0248-22-1111 (代表)